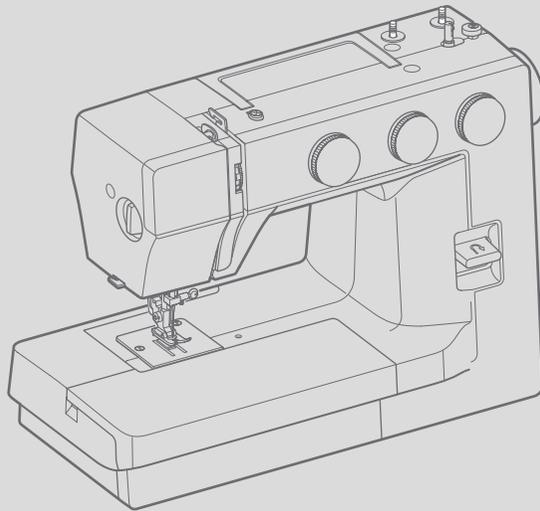


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになれる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになれる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表す表示

 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

本文中の図記号の意味

	△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	警告 感電・火災の原因となります。
	ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 ・ 傷つける、加工する、はさみ込む、たばねる、引っ張る、無理に曲げたりねじったりする、重い物をのせる、高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	一般家庭用、交流電源 100V でご使用ください。
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ ミシン使用中に停電したとき

	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	分解はしないでください。
	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	曲がった針や先つぶれた針は、ご使用にならないでください。
	ぬい途中に布を無理に引っ張ったり、押しついたりしないでください。

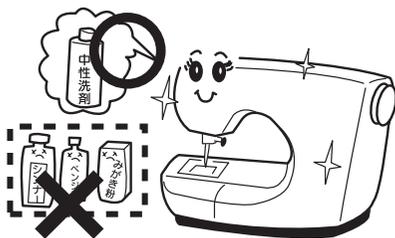
	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	ミシンの通風口はふさがらないでください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、使用するときは、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・ 押さえ、アタッチメントを交換するとき ・ 上糸、下糸をセットするとき
	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのお手入れを行うとき ・ 針、針板を交換するとき
	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・ 正常に作動しないとき ・ 水にぬれたとき ・ 落下などにより破損したとき ・ 異常な臭い・音がするとき ・ 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目次

◎お取り扱いについてのお願い.....	2	◎実用ぬい.....	20 ~ 30
◎各部のなまえ.....	3	●直線ぬい.....	20 ~ 21
◎標準付属品.....	4 ~ 5	★ぬい始め.....	20
●付属品収納場所.....	5	★ぬい方向の変更.....	20
●補助テーブル.....	5	★ぬい終わり.....	21
★フリーアームの使い方.....	5	●針板ガイドラインの利用.....	21
◎基本操作.....	6 ~ 20	★コーナーリングガイド.....	21
●電源のつなぎ方.....	6	●ジグザグぬい.....	22
●速さの調節.....	6	●たち目かがり.....	22
●返しぬいレバー.....	6	●トリコットぬい (三点ジグザグ).....	23
●送り歯のあげ方・さげ方.....	7	●ニットかがり.....	23
●押さえ上げ.....	7	●直線三重ぬい.....	24
●押さえ圧調節ダイヤル.....	8	●ジグザグ三重ぬい.....	24
●押さえの外し方・付け方.....	8	●ボタン付け.....	25
●押さえホルダーの外し方・付け方.....	9	●ボタンホール.....	26 ~ 27
●針の取りかえ方.....	10	●芯入りボタンホール.....	28
●布に適した糸や針を選ぶ目安.....	10	●ファスナー付け.....	29
●糸立て棒.....	11	●まつりぬい.....	30
●ボビンケースの外し方.....	11	◎飾りぬい.....	31 ~ 34
●ボビンの外し方.....	11	●シェルタック.....	31
●ボビンに下糸を巻く.....	12	●ファゴティング.....	31
●ボビンボビンケースに入れる.....	13	●スモッキング.....	32
●ボビンケースをかまに入れる.....	13	●アップリケ.....	33
●上糸の準備.....	14 ~ 16	●スーパー模様.....	34
★上糸のかけ方.....	14	●密着模様ぬい (サテン).....	34
★糸通しの使い方.....	15	◎ミシンのお手入れ.....	35
★下糸を引きあげる.....	16	●送り歯の掃除.....	35
●模様の選び方.....	16 ~ 18	●かまの掃除.....	35
★模様選択ダイヤル.....	17	◎ミシンの調子が悪いときの直し方.....	36 ~ 38
★ぬい目のあらか調節ダイヤル.....	17	●原因と直し方.....	36 ~ 38
★スーパー模様の形の整え方.....	17	●面板の外し方・付け方.....	38
★ぬい目の幅調節ダイヤル.....	18		
★針位置をかえる (直線状模様).....	18		
●糸調子の合わせ方.....	18 ~ 19		
★自動糸調子.....	18		
★マニュアル糸調子.....	19		

◎お取り扱いについてのお願い

◇ ご使用前に



- ① めう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇ いつまでもご愛用いただくために



- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

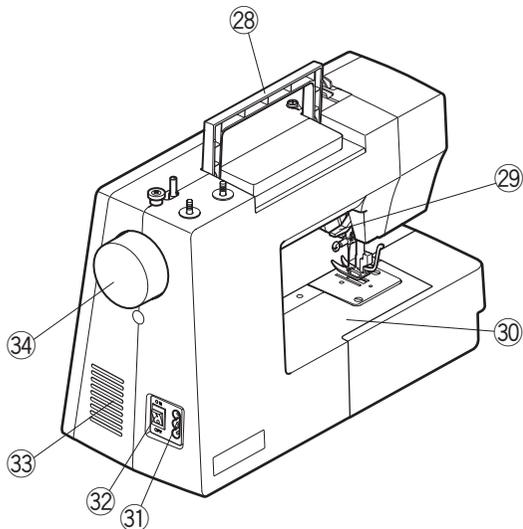
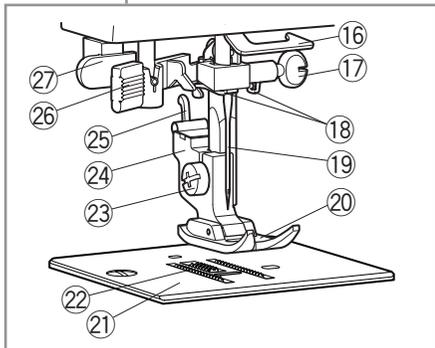
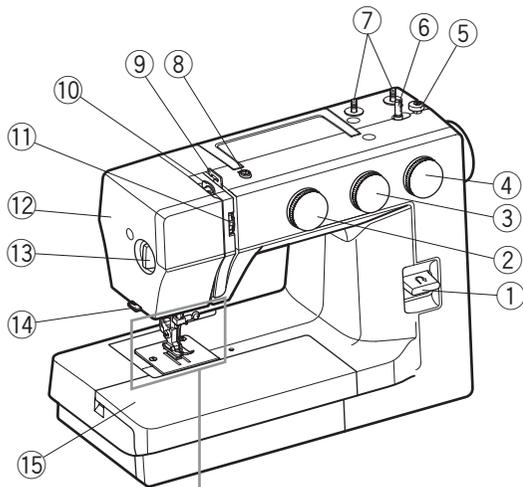


- ③ 落としたり、ぶつかけたりするなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたりしたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(36～38ページ)によって点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ



- ① 返しぬいレバー
- ② 模様選択ダイヤル
- ③ ぬい目のあらか調節ダイヤル
- ④ ぬい目の幅調節ダイヤル
- ⑤ ポビン押さえ
- ⑥ 糸巻き軸
- ⑦ 糸立て棒
- ⑧ 糸巻き糸案内
- ⑨ 糸かけ
- ⑩ 天びん
- ⑪ 糸調子ダイヤル
- ⑫ 面板
- ⑬ 押さえ圧調節ダイヤル
- ⑭ 糸切り
- ⑮ 補助テーブル（付属品収納場所）
- ⑯ アーム糸案内
- ⑰ 針止めねじ
- ⑱ 針棒糸かけ
- ⑲ 針（14番）
- ⑳ 基本押さえ A
- ㉑ 針板
- ㉒ 送り歯
- ㉓ 押さえホルダー止めねじ
- ㉔ 押さえホルダー
- ㉕ レバー
- ㉖ 糸通しレバー
- ㉗ ボタンホール切りかえレバー

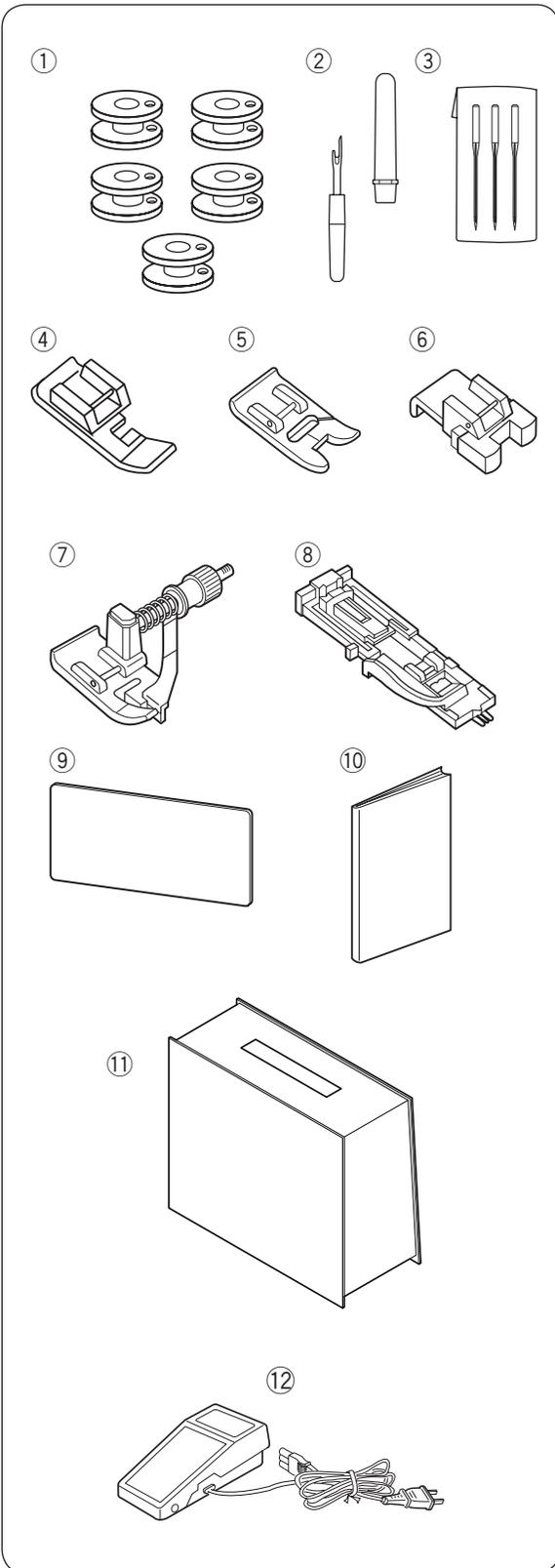
- ㉘ 手さげハンドル
- ㉙ 押さえ上げ
- ㉚ フリーアーム
- ㉛ プラグ受け
- ㉜ 電源スイッチ
- ㉝ 通風口
- ㉞ はずみ車

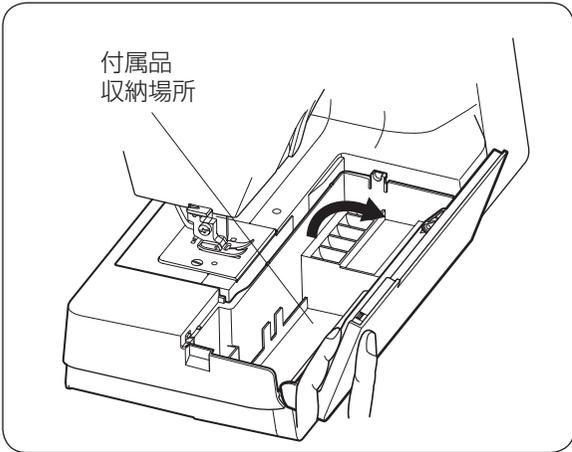
※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◎標準付属品

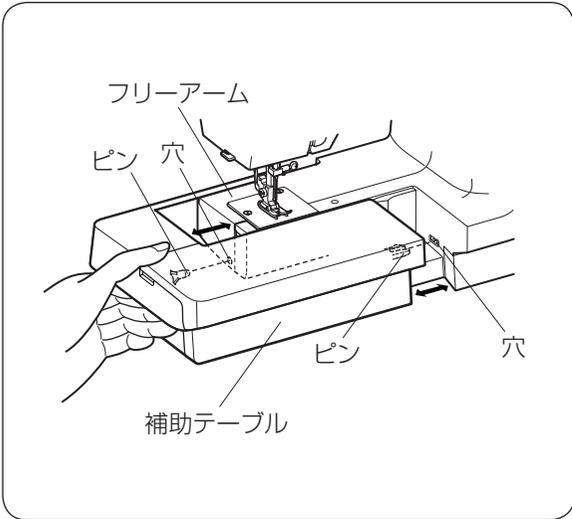
- ① ボビン (5 個)
※ 1 つは、ミシンの内がまに入っています。
- ② シームリッパー
- ③ 針 (HA × 1) [14 番針 : 3 本]
- ④ ジッパー押さえ
- ⑤ サテン押さえ
- ⑥ ボタン付け押さえ
- ⑦ まつりぬい押さえ
- ⑧ ボタンホール押さえ
- ⑨ カード
- ⑩ 取扱説明書
- ⑪ カバー
- ⑫ フットコントローラー





● 付属品収納場所

付属品は補助テーブルの中に収納されています。補助テーブルを開けると、押さえなどの小物が収納できます。

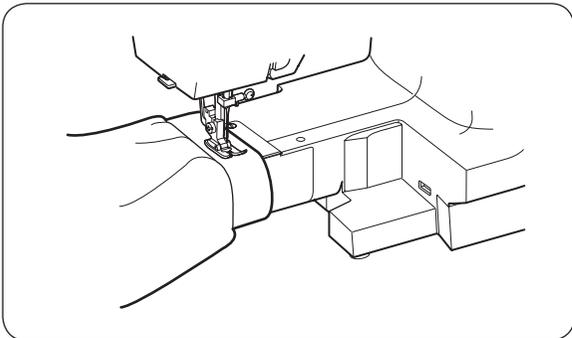


● 補助テーブル

【補助テーブルの外し方】

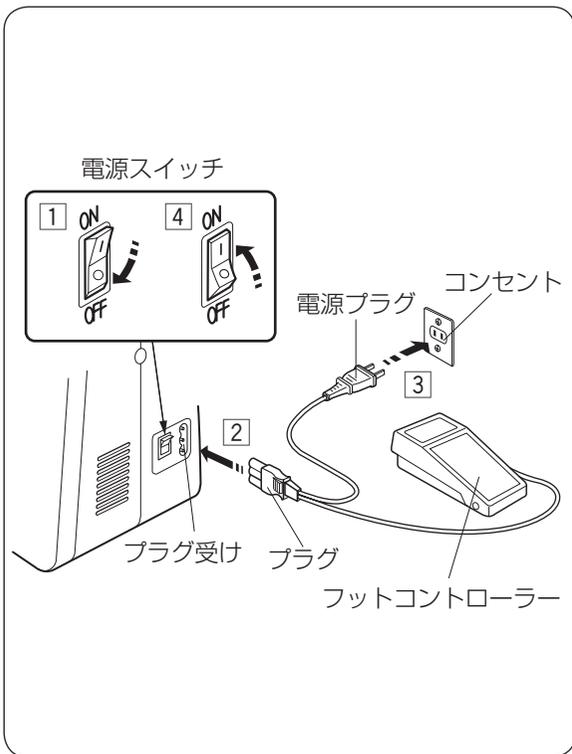
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※ 補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。



★ フリーアームの使い方

補助テーブルを外すとフリーアームになります。そで口やすそなどのぬいおよび、ふくろ物の口端の始末に利用します。



◎ 基本操作

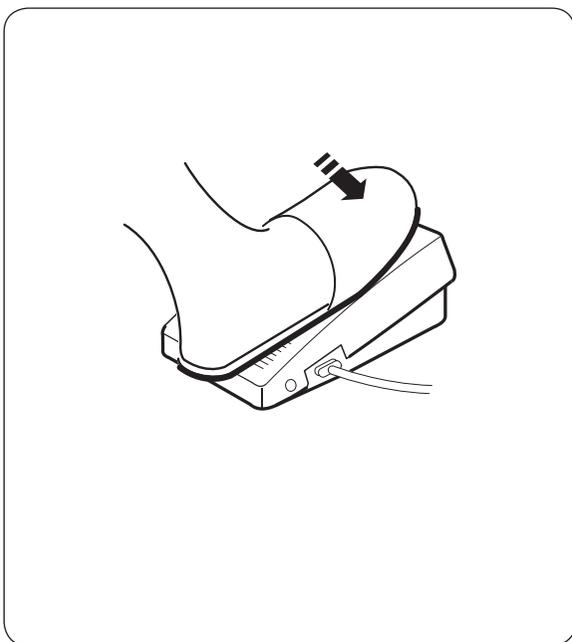
● 電源のつなぎ方



警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。

- 1 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- 2 プラグをプラグ受けに差し込みます。
- 3 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 4 電源スイッチを「ON」(入) にします。



● 速さの調節

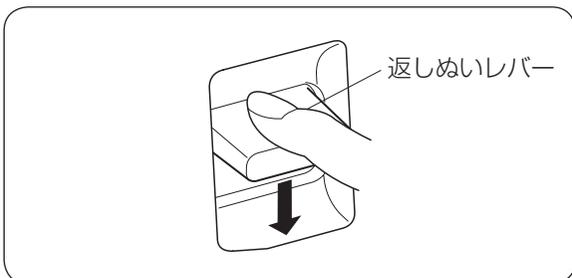
ぬう速さは、フットコントローラーで調節します。フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。

※ フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合は、もう一度電源を入れなおして、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。



注意

- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。
けがや故障の原因となります。
- フットコントローラーを使用する場合、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けがや故障の原因となります。

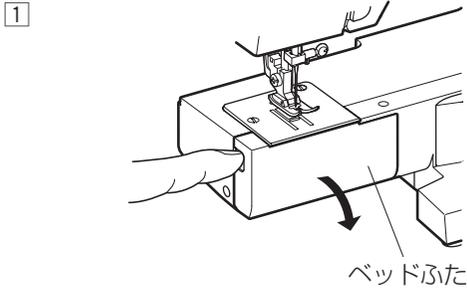


● 返しぬいレバー

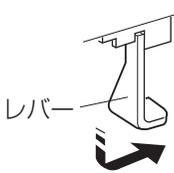
ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだ、ミシンは返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいにもどります。

● 送り歯のあげ方・さげ方

- ① 補助テーブルを左側に引いて外します。
(5 ページ参照)
ベッドふたを開けます。

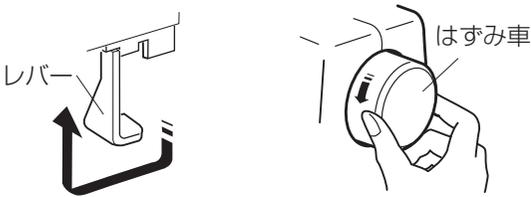


- ② 送り歯をさげる位置



- ② 送り歯をさげるときは、レバーを押しながら左図のように矢印の方向へ動かしてください。

- ③ 送り歯をあげる位置

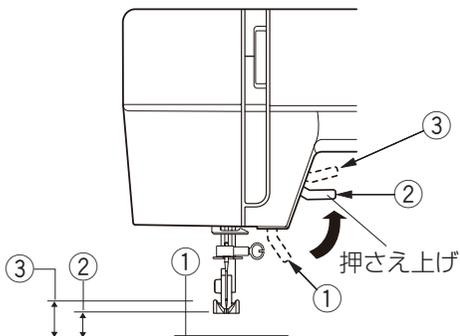


- ③ 送り歯をあげるときは、レバーを押しさげ、左図のように矢印の方向に動かします。
はずみ車を手で手前にまわし、送り歯があがることを確認してください。

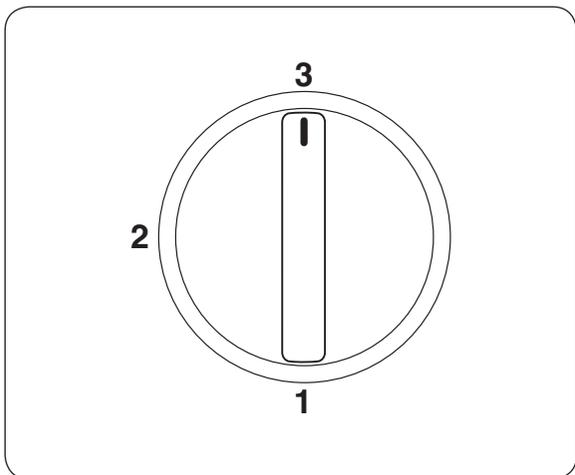
※ 送り歯をさげた場合、ぬいが終わったら必ず、レバーを「送り歯をあげる位置」にもどしてください。

● 押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげることもでき、厚い布を入れるときなどに利用できます。



- ① 押さえ上げをさげた位置：
ぬうときなど
- ② 普通にあげた位置：
布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換のときなど
- ③ さらにあげた位置（固定はできません。）：
厚い布を入れるときなど



● 押さえ圧調節ダイヤル

布地の厚さやぬい方によって、押さえ圧調節ダイヤルをまわして押さえ圧を調節します。小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。普通地の場合は、押さえ圧調節ダイヤルを「3」に合わせます。

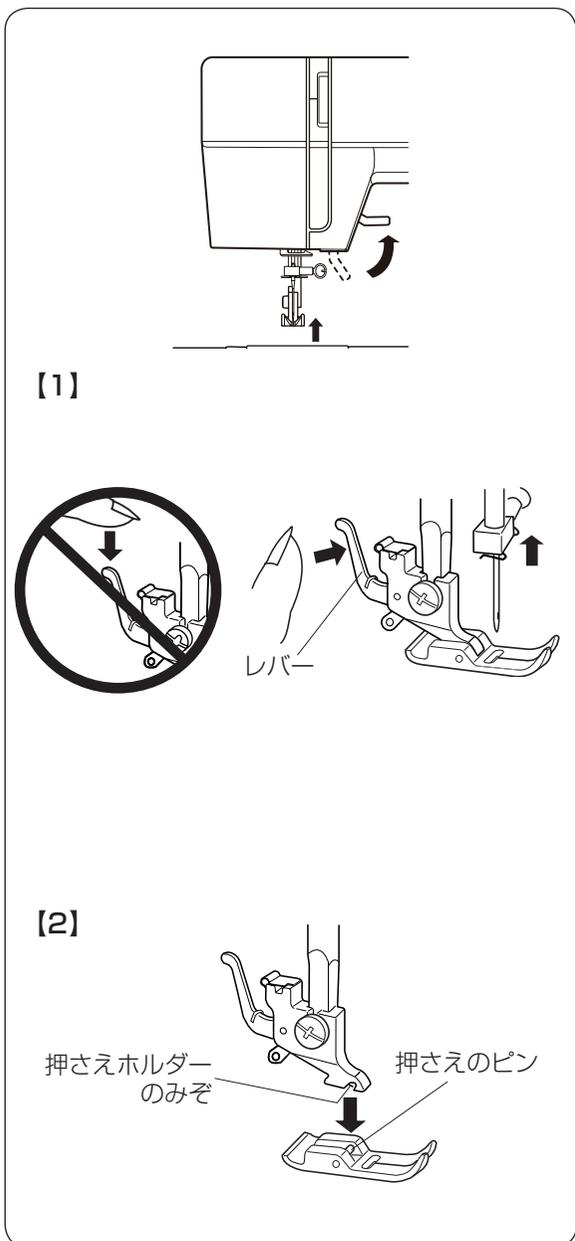
アップリケなどぬいしろ部分が重なり合うものをカーブしてぬう場合など、ぬいずれしやすいときは「2」にさげると、布地の取りまわしがよくなります。

伸縮性のある布地の場合、「1」に合わせる必要があることがあります。

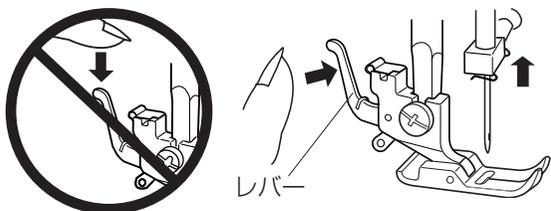
● 押さえの外し方・付け方

⚠ 注意

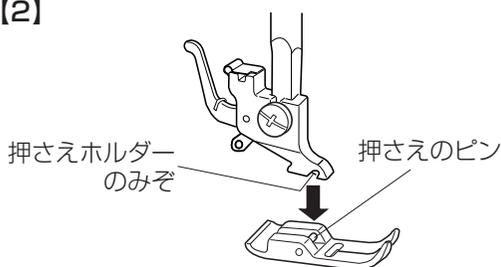
- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様にあったものを使用してください。押さえが合っていないと針が押さえに当たり、けがの原因となります。



【1】



【2】



【1】 押さえの外し方

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。

押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※ 押さえ上げのあげ方は、「●押さえ上げ」(7ページ)をごらんください。

※ レバーを上から押すと、故障の原因となります。

【2】 押さえの付け方

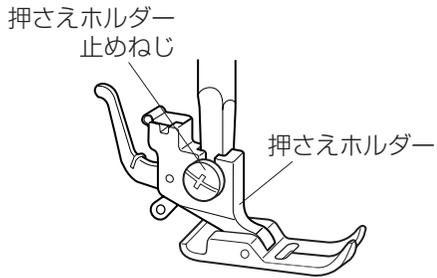
押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下に置いて、押さえ上げをゆっくりさげます。

● 押さえホルダーの外し方・付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【1】



押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

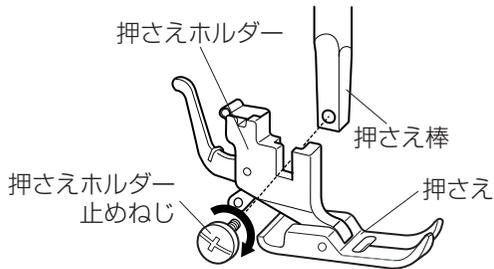
【1】 押さえホルダーの外し方

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。

押さえホルダー止めねじをドライバーで左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

※ ドライバーは標準付属に含まれていません。

【2】



【2】 押さえホルダーの付け方

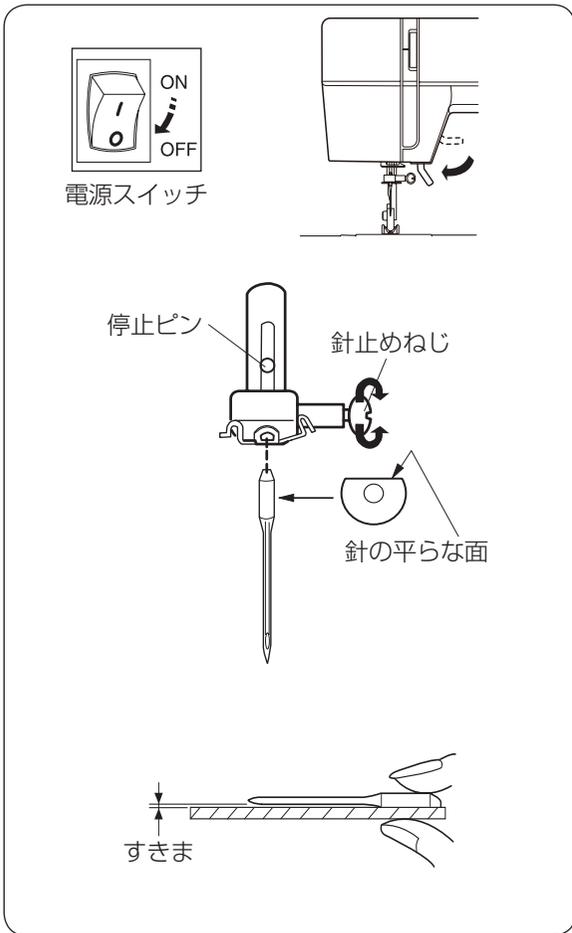
※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

① 押さえ上げをあげます。

② 押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじを軽くしめ、押さえホルダーを仮止めしておきます。

③ 押さえ上げをさげ、押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

※ ドライバーは標準付属に含まれていません。



● 針の取りかえ方

⚠ 注意

針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえをさげます。

【針の外し方】

針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。

【針の付け方】

交換する針の平らな面を向こう側に向け、針を停止ピンに当たるところまで差し込みます。

針止めねじをまわし、針をしっかり止めます。

※ 針が正しく付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのがよい針です。針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わないでください。

● 布に適した糸や針を選ぶ目安

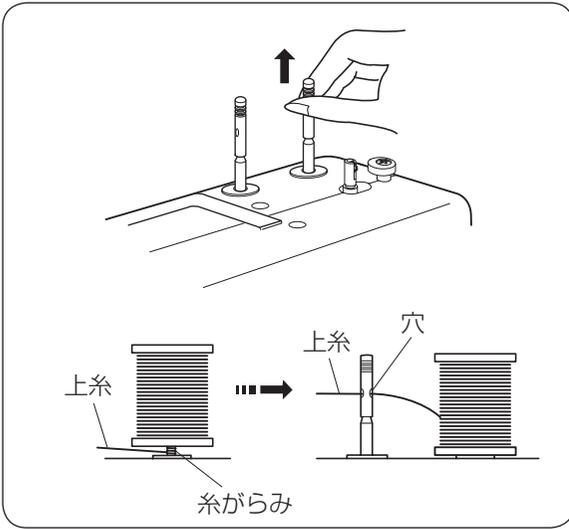
※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番 または ジャンメブルー針 (オプション)
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 ジャンメブルー針 (オプション)
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコットなど）や目とびしやすい布地には、ジャンメブルー針（オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。



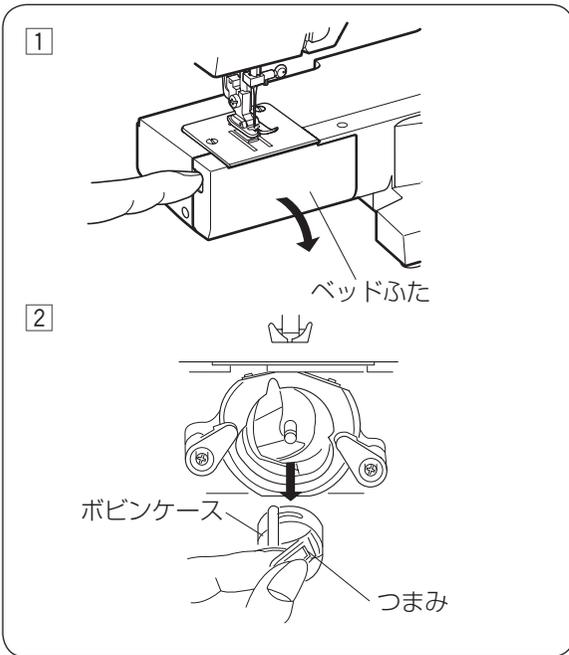
● 糸立て棒

糸立て棒はミシン本体に収納されています。
 使用するときには、糸立て棒をいっぱい引きあげます。
 ミシン本体に収納するときには、押し下げます。

【糸がらみしやすい糸のとき】

糸立て棒にからまりやすい糸を使用する場合は、左図のように糸立て棒の穴に糸を通してください。

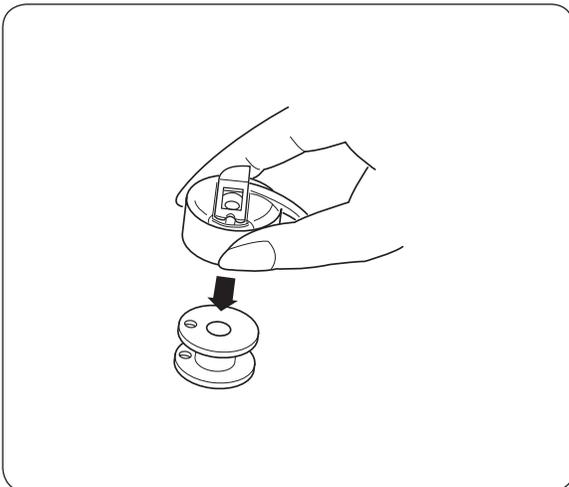
※ 糸立て棒の穴は真横に向けてください。



● ボビンケースの外し方

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえをあげます。

- ① 補助テーブルを左側に引いて外します。
 (5 ページ参照)
 ベッドふたを開けます。
- ② ボビンケースのつまみを持って取り出します。



● ボビンの外し方

ボビンケースのつまみをはなして下に向けるとボビンが外れます。

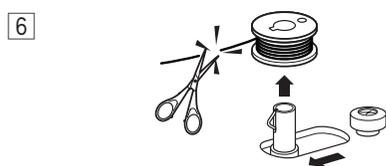
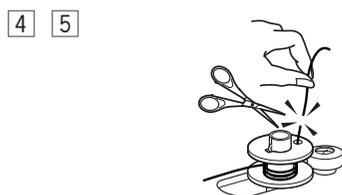
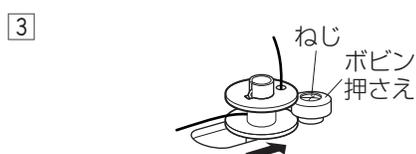
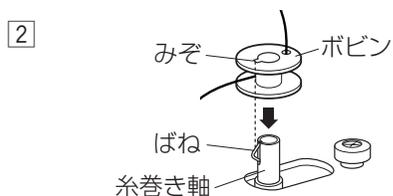
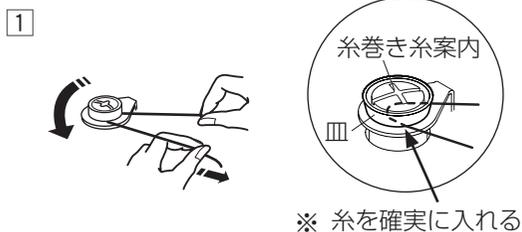
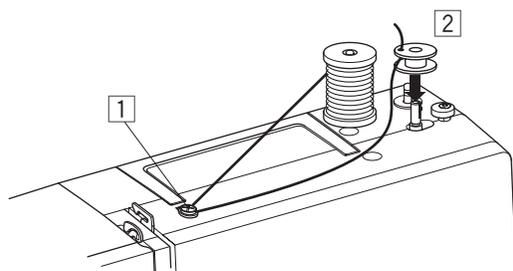
● ボビンに下糸を巻く

お願い：

- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



- ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。
- 金属ボビンは使用しないでください。糸調子の不具合や、故障の原因となります。



- 糸立て棒を引き出し、糸こまをセットします。(11 ページ参照)

糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわして矢印方向に引き、糸巻き糸案内にかけます。

- ※ 糸を確実に皿の下に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。

- ボビンの穴に内側から糸を通します。ボビンのみぞと糸巻き軸のばねを合わせて、糸巻き軸にボビンを差し込みます。

- ボビンをボビン押さえの方に押し付け、糸巻き位置にセットします。

※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。

- 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を約 3 秒間巻き付けたらミシンを止めます。穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

- 再びミシンをスタートさせ、下糸を巻きます。巻き終わったらミシンを止めます。

- ボビンを左側にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

※ ボビン (糸巻き軸) は、必ずミシンを止めてからもどします。



● ボビンをボビンケースに入れる

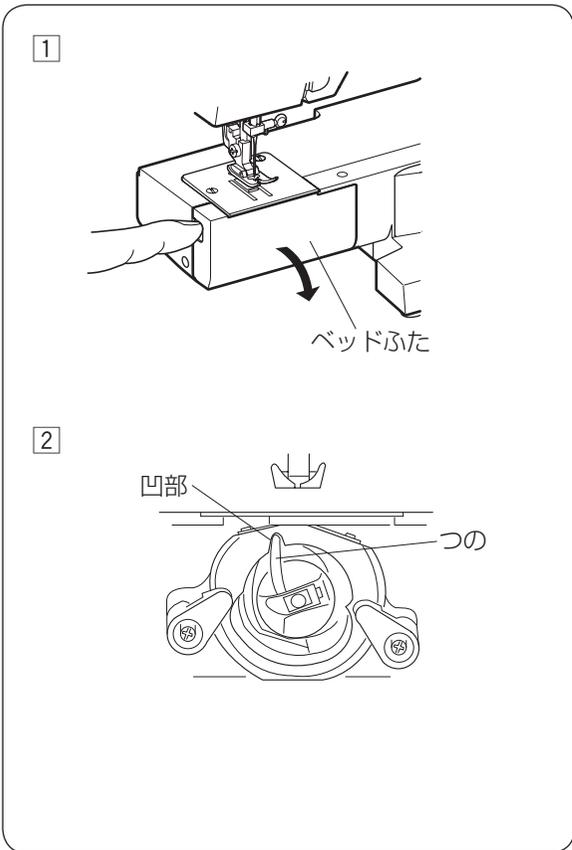
① 下糸を巻いたボビンの糸の端が、左図の矢印方向（時計まわり）になるようにたらし、ボビンをボビンケースに入れます。

② みぞに糸を通します。

③ 糸を引いて糸調子ばねの下を通し、糸口に引き出します。

糸は約 10 cm 出しておきます。

※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。

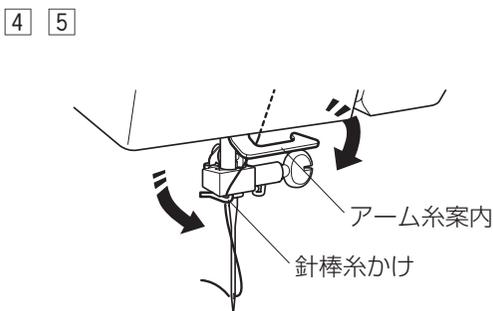
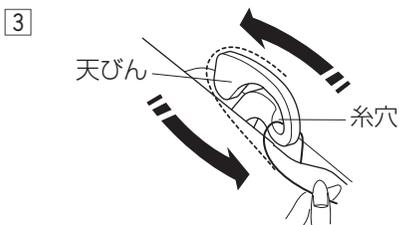
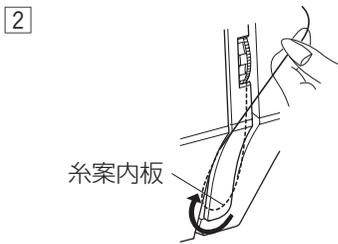
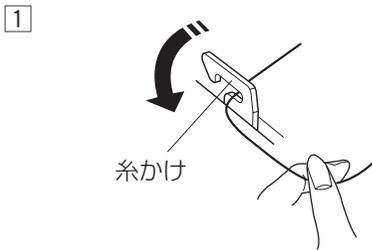
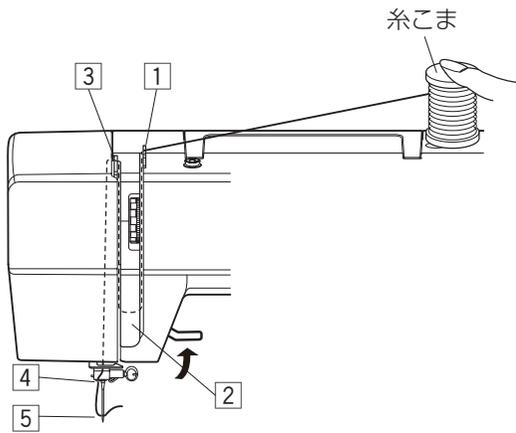


● ボビンケースをかまに入れる

はずみ車を手で手前にまわして針をあげます。

① ベッドふたを開けます。

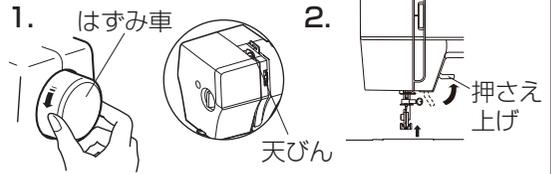
② ボビンケースのつまみを持って、つのをかまの凹部に合わせ、奥の方へいっぱいに入れてから、つまみをはなします。



● 上糸の準備

※ はじめに、下記の【準備】を必ず行ってください。ぬい不良の原因となります。

【準備】



1. はずみ車を手で手前にまわし、天びんをいちばん上まであげます。
2. 押さえ上げをあげます。

★ 上糸のかけ方



上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

- ※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。
 - ※ 各部に糸を確実にかけるため、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。
 - ※ 糸立て棒を引き出し、糸こまをセットします。(11 ページ参照)
- 1 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら糸かけにかけて、みぞにそって下におろします。
 - 2 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内板の下をくぐらせ、左上に引きあげます。
- ※ 必ず押さえ上げがあがっているか確認してください。
- 3 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。
- ※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。
- 4 糸を右からアーム糸案内にかけ、左から針棒糸かけにかけます。
 - 5 糸通しを使って針に糸を通します。(「★糸通しの使い方」15 ページ参照)

★ 糸通しの使い方

⚠ 注意

糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番～16 番、糸は 50 番～90 番が使用できます。

① 上糸かけのとき (14 ページ参照) に針と天びんをいちばん上まであげた状態のまま、押さえ上げを下げます。糸通しを止まるまで引きさげて保持します。

② 糸通しを矢印の方向 (A) にまわして、針穴にフックを入れます。

糸を左側からガイドとフックにかけます。

※ 右手に持っている糸は、ガイドとフックのあいだの糸がたるまない程度に軽く持ちあげてください。

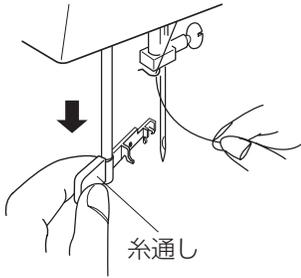
③ 糸通しを矢印方向 (B) にまわすと、フックにかけた糸が、針穴のうしろから輪になって出てきます。

糸が出てきたら、右手に持っていた糸をはなしてください。

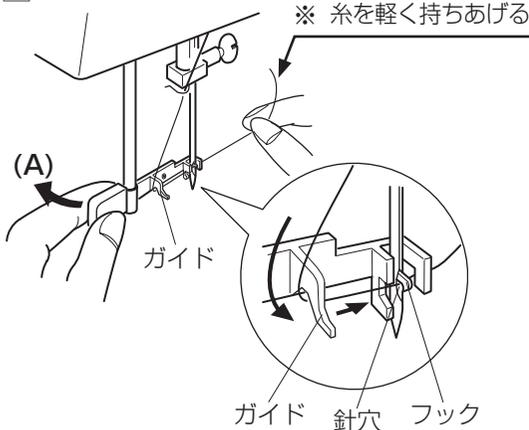
④ 糸通しを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、針穴から糸の端を引き出します。

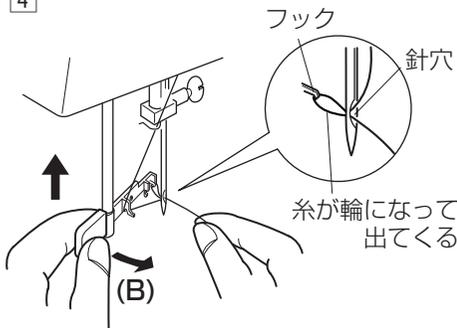
1



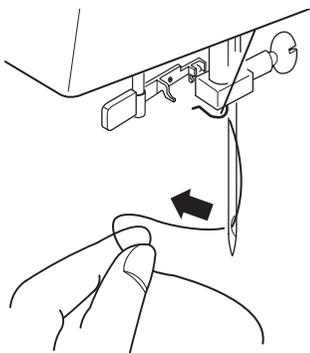
2



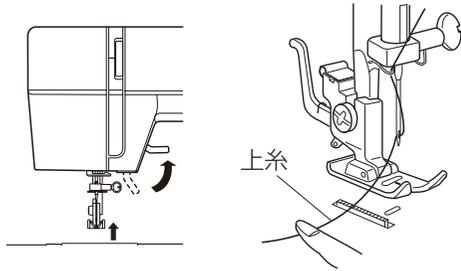
3 4



5



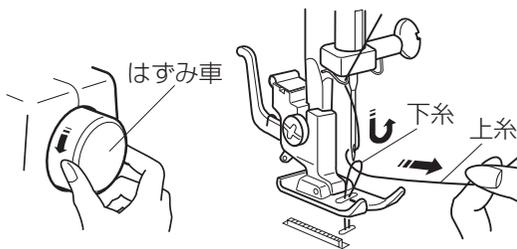
1



★ 下糸を引きあげる

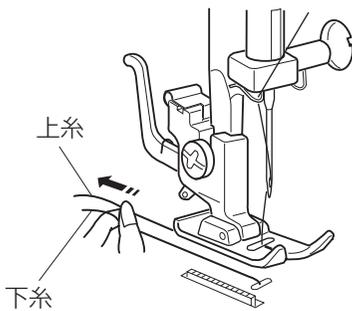
① 押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

2



② はずみ車を手で手前に 1 回転させ、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

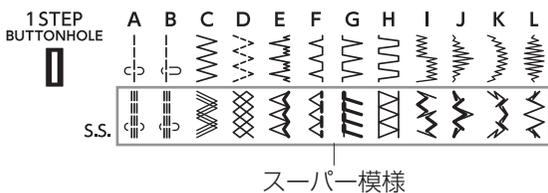
3

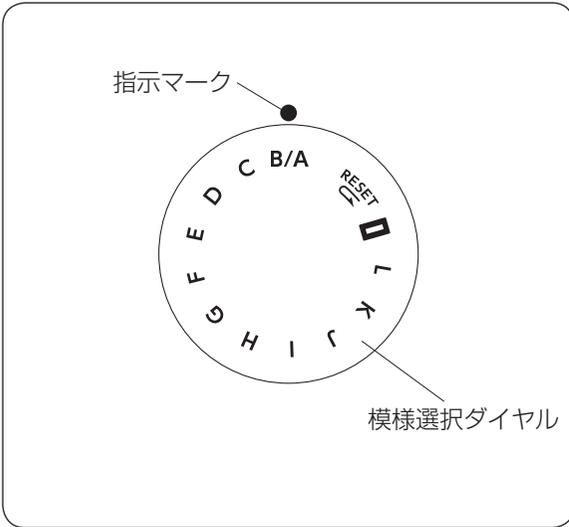


③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm うしろにそろえて引き出します。

● 模様を選び方

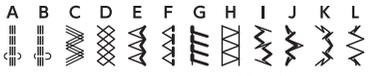
手ではずみ車を手前にまわし、針をあげます。
模様選択ダイヤルおよびぬい目のあらか調節ダイヤルで選びます。





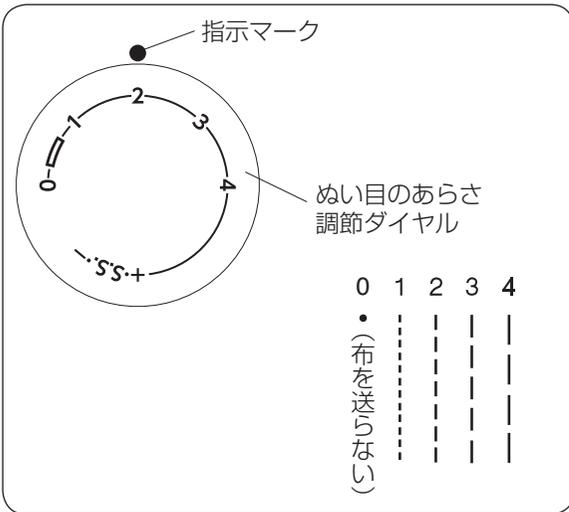
★ 模様選択ダイヤル

模様選択ダイヤルをまわし、模様を指示マークに合わせます。

※ スーパー模様  を選ぶときは、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの指示線を「S.S.」に合わせてください。

⚠ 注意

針が布にささったままで、模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因となります。必ず、針をあげた状態で模様を選んでください。

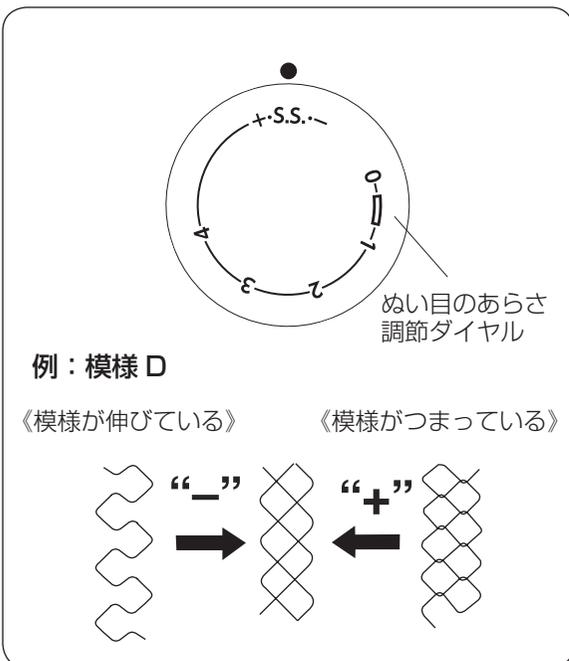


★ ぬい目のあらかさ調節ダイヤル

ぬい目のあらかさをかえるときは、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルをまわして目盛りを指示マークに合わせます。数字はぬい目のあらかさの目安をミリメートルで表示しています。数値を大きくすると、ぬい目のあらかさがあらかくなります。

模様選択ダイヤルを「B/A」に合わせて、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルをまわすと、ぬい目のあらかさは左図のように変化します。

※ ボタンホールのはきは、目盛り「」の範囲に合わせてください。そのほかの模様は、用途に合わせてセットしてください。



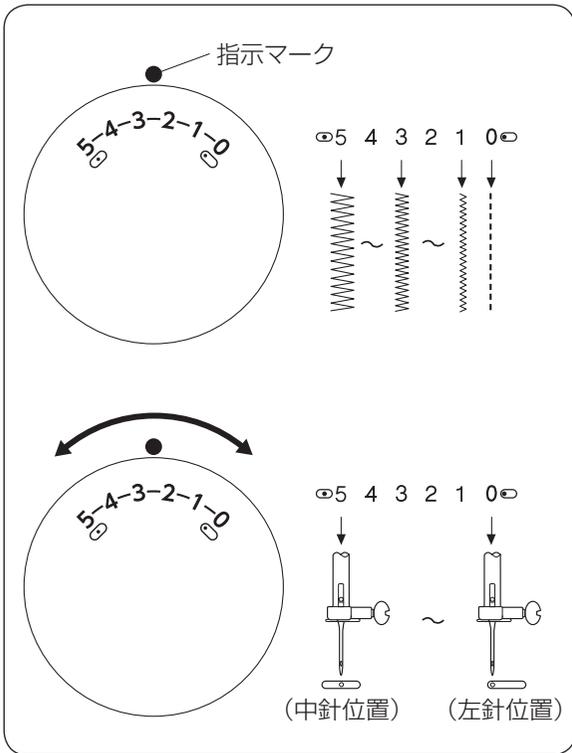
★ スーパー模様の形の整え方

スーパー模様  は、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの指示線を「S.S.」に合わせて選びます。

糸や布などにより、模様がくずれる場合があります。

実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれている場合には、以下のように調節します。

- 模様伸びている場合、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの数字を小さくする方向へ (-) まわしてください。
- 模様がつまっている場合、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの数字を大きくする方向へ (+) まわしてください。



★ めい目の幅調節ダイヤル

めい目の幅をかえるときは、めい目の幅調節ダイヤルをまわして目盛りを指示マークに合わせます。

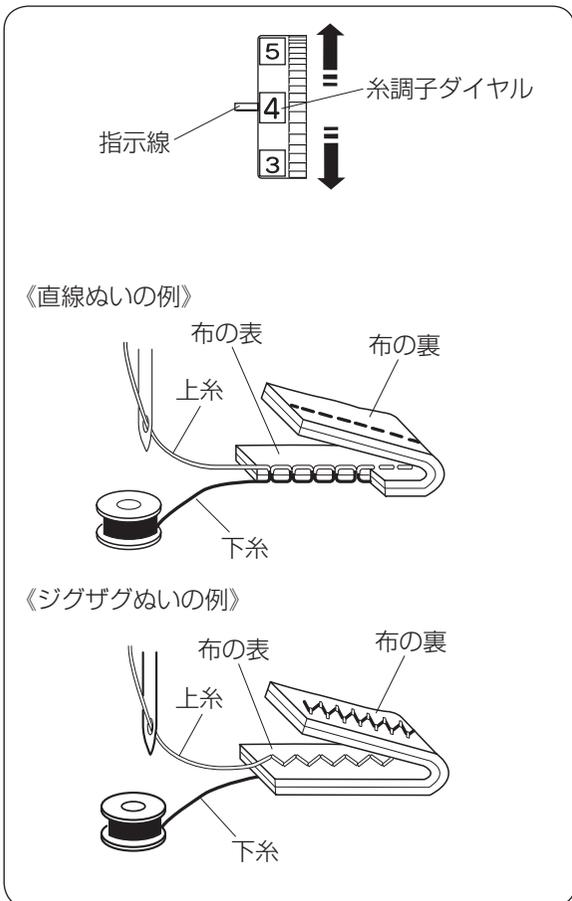
数字はめい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。数値を大きくすると、めい目の幅が広がります。

★ 針位置をかえる（直線状模様）

模様選択ダイヤルで「B/A」を選択した場合、めい目の幅調節ダイヤルをまわして、針を中針位置から左針位置のあいだでかえることができます。

⚠ 注意

針が布にささったままで、めい目の幅調節ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因となります。必ず、針をあげた状態でダイヤルをまわしてください。



● 糸調子の合わせ方

★ 自動糸調子

糸調子は特殊なめい以外は、糸調子ダイヤル「4」を指示線に合わせてぬいます。

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

【バランスのとれた糸調子】

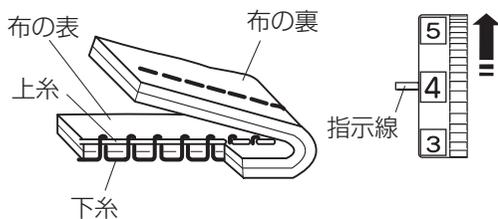
直線ぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。ジグザグぬいの場合、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

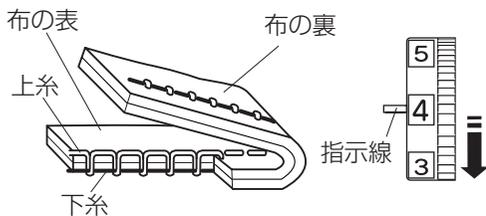
- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

※ 糸調子が正しく調節されていないと、めい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

《上糸が強すぎる場合の調節》



《上糸が弱すぎる場合の調節》



★ マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【上糸が強すぎる場合の調節】

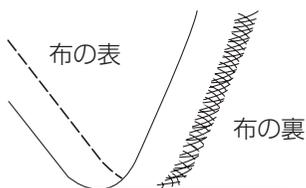
上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

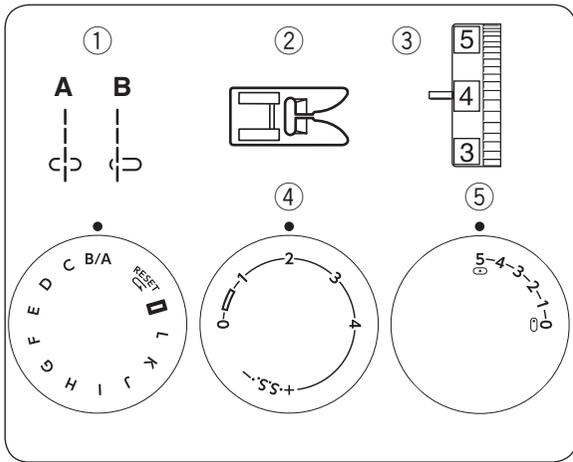
上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。



布地の裏がタオル地のような場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方がまちがっています。上記のやり方で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。（「●上糸の準備 / ★上糸のかけ方」14 ページ参照）

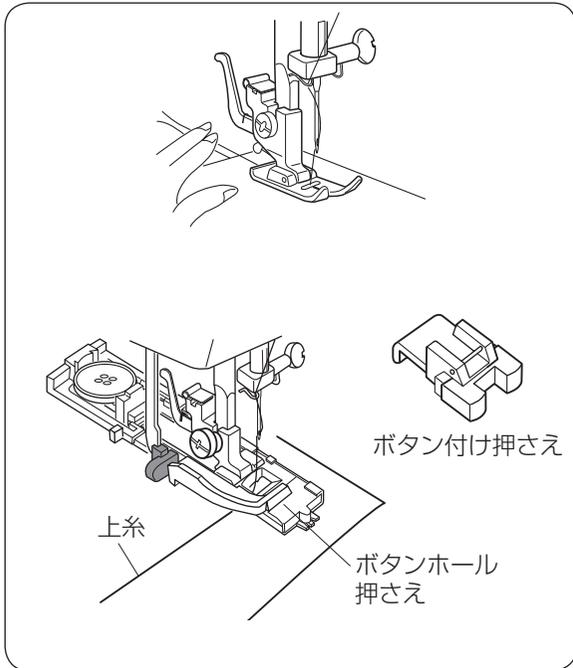


◎ 実用ぬい

● 直線ぬい

ミシンのセット

- | | |
|------------------|--------------------|
| ① 模様選択ダイヤル: | A または B |
| ② 押さえ: | 基本押さえ A |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 2 ~ 6 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | 1.5 ~ 4 |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | ○ (0) または
⊖ (5) |



★ ぬい始め

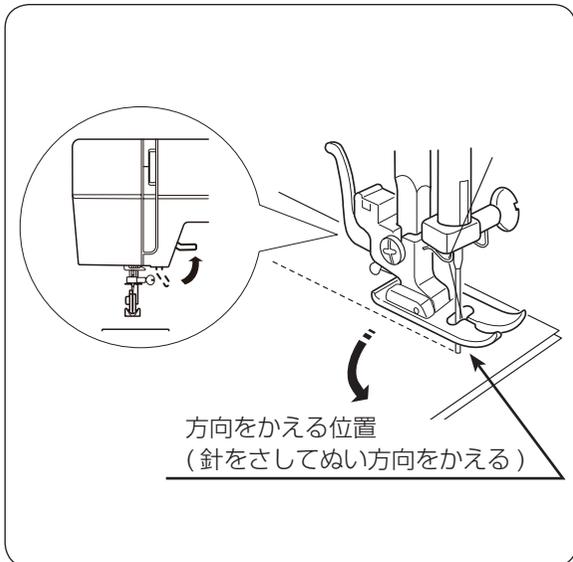
上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえ上げをさげてぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

ぬい始めの糸の引き出し方

通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。ただし、ボタンホール押さえ、ボタン付け押さえなど、押さえの裏側の前後方向（縦方向）がへこんでいて糸を押さえる部分がない場合、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押さえてください。



★ ぬい方向の変更

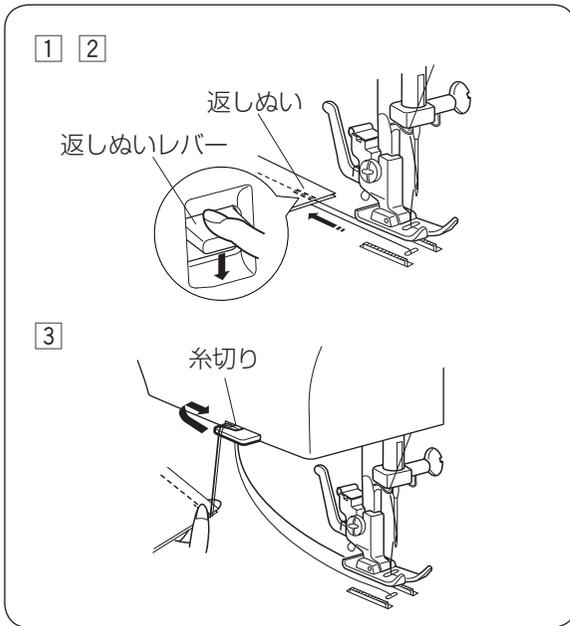
⚠ 注意

布をガイドするときは、押さえの近くに指を置かないでください。針止めねじが指に当たってけがをするおそれがあります。

ミシンを止め、はずみ車を手で手前にまわして針を布にさし、押さえ上げをあげます。

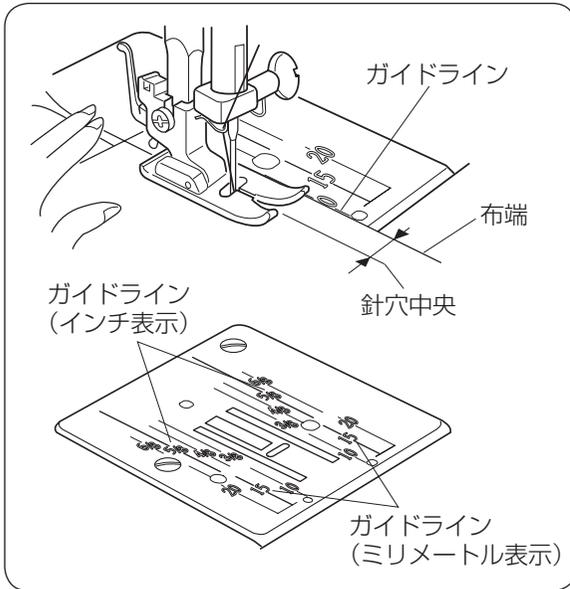
ぬい方向をかえ、押さえをさげてぬい始めます。

※ ぬい位置がずれずに、きれいにぬうことができます。



★ ぬい終わり

- ① ぬい終わりの位置で返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをしてミシンを止めます。
- ② 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。
- ③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

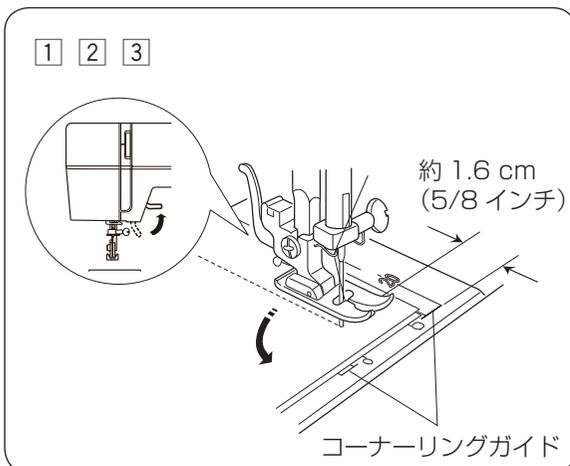


● 針板ガイドラインの利用

針板および角板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインが表示されています。針板には、布端を合わせてぬうためのガイドラインが表示されています。

※ ガイドラインの数字は、ぬい位置（針穴の中央）からガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」で表示しています。布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

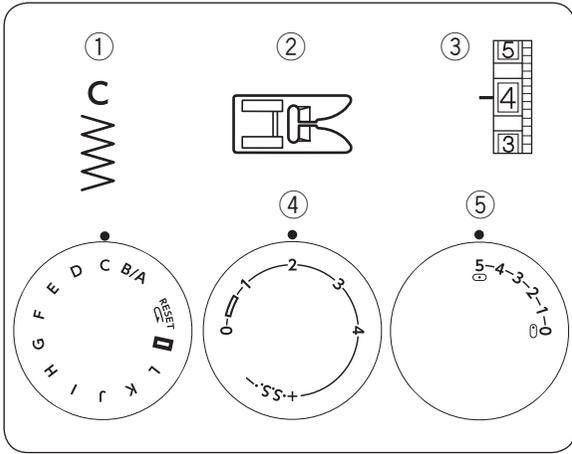
数字	10	15	20	3/8	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.0	1.5	2.0	-	-	-	-
間かく (インチ)	-	-	-	3/8	1/2	5/8	3/4



★ コーナーリングガイド

布端から 1.6 cm (5/8 インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに使います。

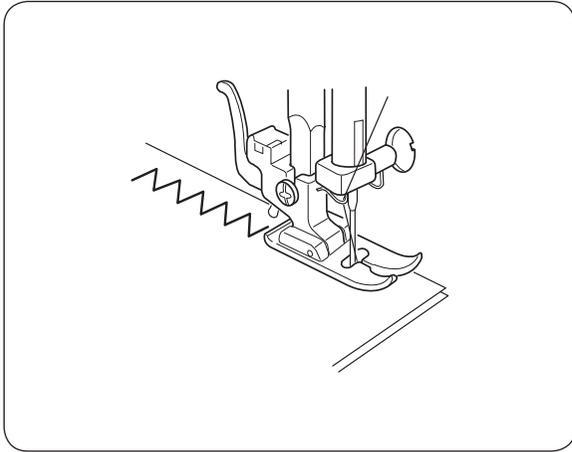
- ① 布端がコーナーリングガイドのところきたらミシンを止め、はずみ車を手で手前にまわして針を布にさします。
- ② 押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm (5/8 インチ) の位置に合います。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。



● ジグザグぬい

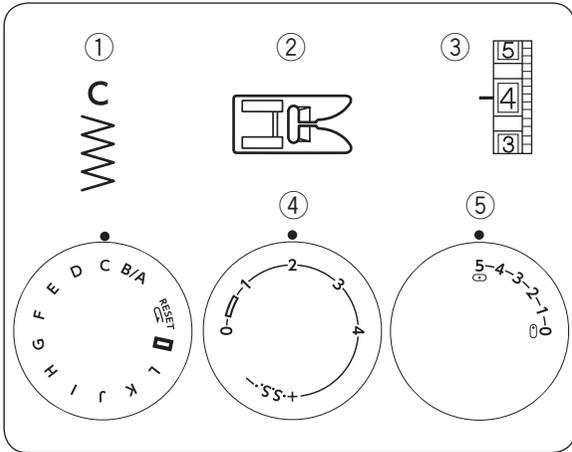
ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: C
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 2 ~ 5
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: 0.5 ~ 4
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



アップリケやボタン付け、飾りぬいなどに使います。

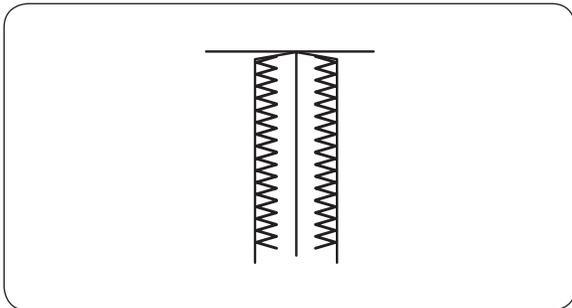
※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には裏に芯地を貼るときれいにぬえます。



● たち目かがり

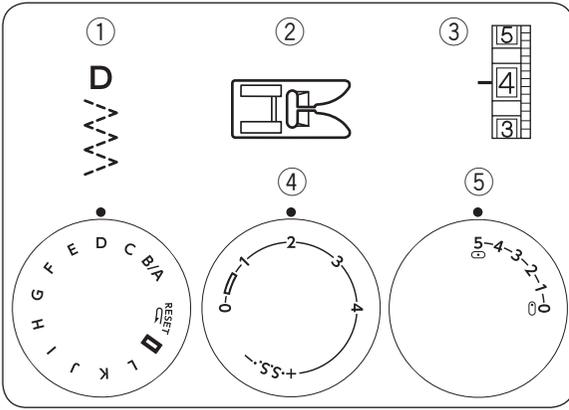
ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: C
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: 1 ~ 2
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



布端のほつれ止めとして広く使用します。

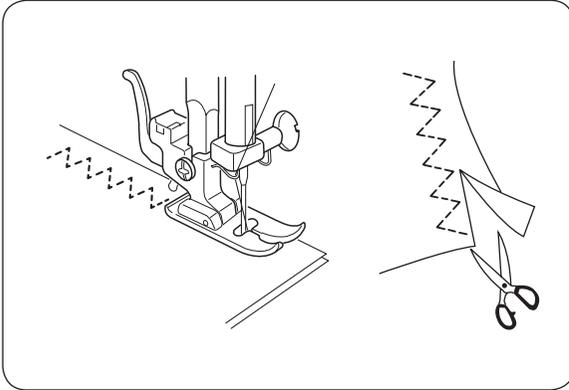
※ 試しぬいをしてぬい縮みが出ないように、ぬい目のあらかを調節してください。



● トリコットめい (三点ジグザグ)

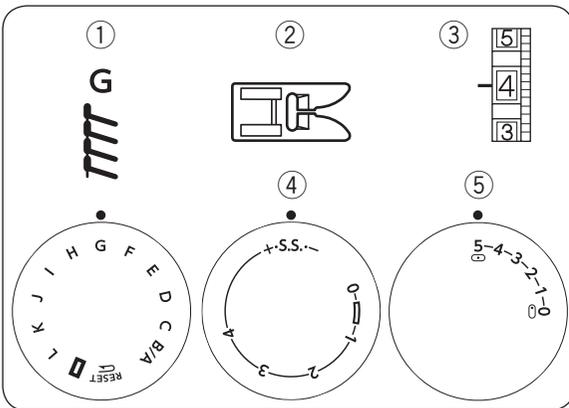
ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: D
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: 0.5 ~ 4
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。

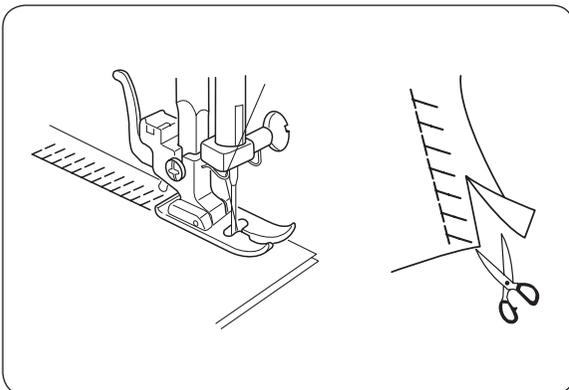
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



● ニットかがり

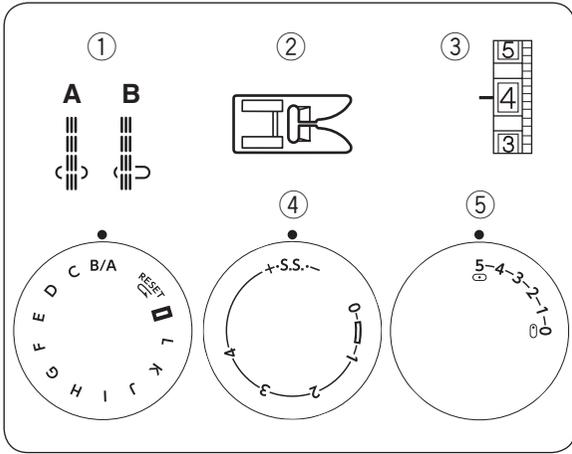
ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: G
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: S.S.
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



ジャージー、ニット、トリコットなど伸びる布地の端をかがるのに使用します。

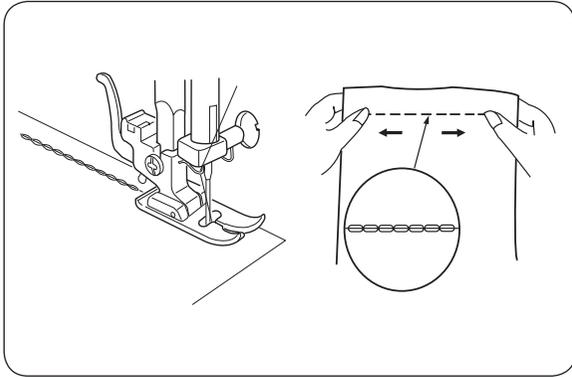
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



● 直線三重ぬい

ミシンのセット

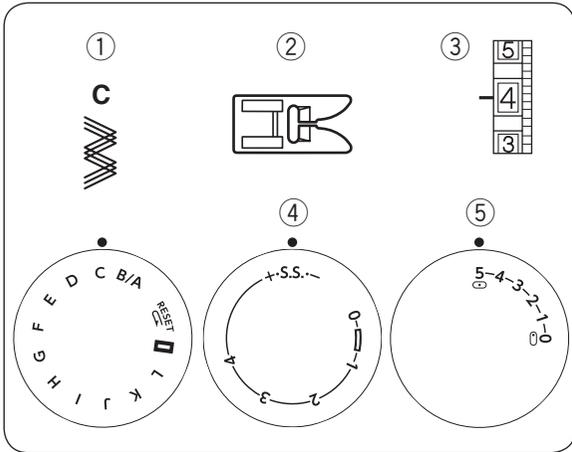
- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 模様選択ダイヤル: | A または B |
| ② 押さえ: | 基本押さえ A |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 2 ~ 6 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | S.S. |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | 0 (0) または 5 (5) |



伸縮性のある強いぬい目です。

ズボンの股やそでの付け根など、特に強度が必要な場所の補強に使用します。

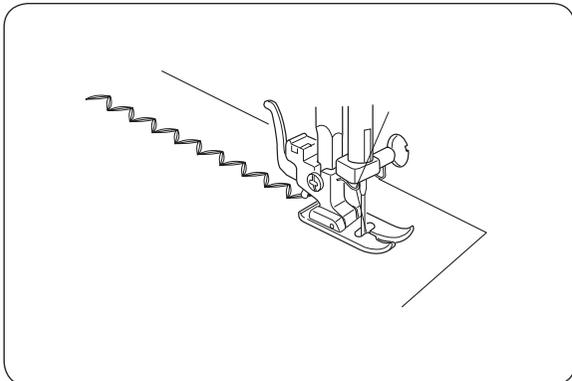
布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。



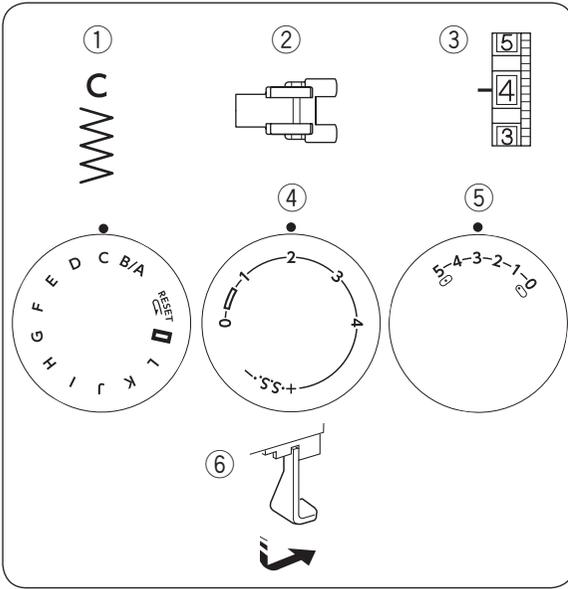
● ジグザグ三重ぬい

ミシンのセット

- | | |
|------------------|---------|
| ① 模様選択ダイヤル: | C |
| ② 押さえ: | 基本押さえ A |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 2 ~ 6 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | S.S. |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | 2 ~ 5 |



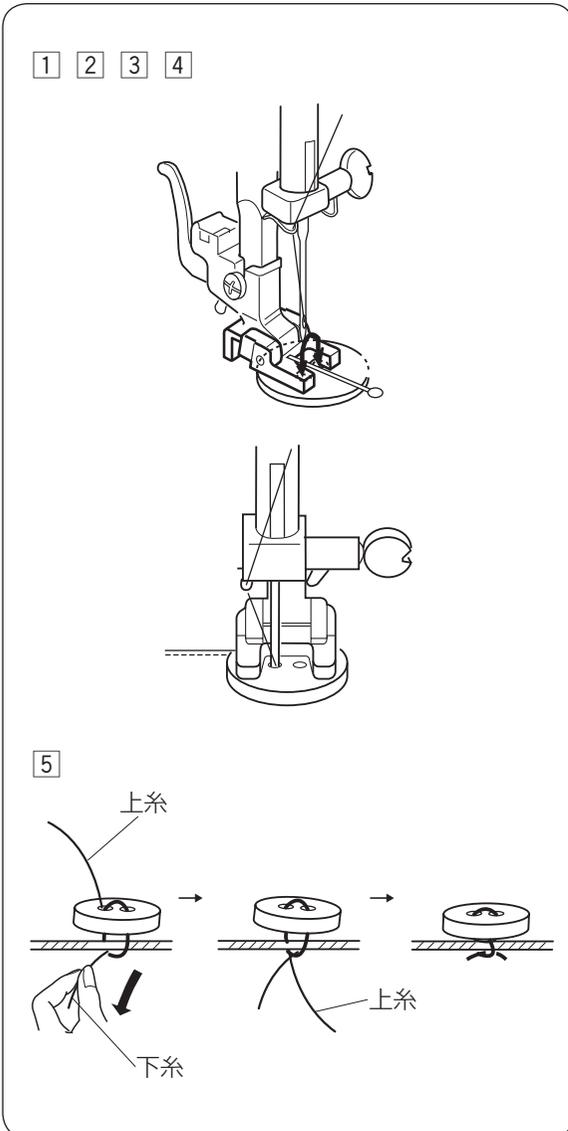
飾りぬいに使います。



● ボタン付け

ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル： C
- ② 押さえ： ボタン付け押さえ
- ③ 糸調子ダイヤル： 2～6
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル：調節の必要なし
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル：
ボタン穴の幅に合わせる（18 ページ参照）
- ⑥ 送り歯レバー： さげる位置
（7 ページ参照）



① ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。

※ 針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにボタンを置き、押さえ上げをさげます。

※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針が折れる恐れがあります。

③ ぬい目の幅調節ダイヤルで、ボタン穴の幅とジグザグ幅を合わせます。（18 ページ参照）
はずみ車を手で手前にまわして、ボタンの各穴に針が入るかどうかを確認します。

⚠ 注意

必ず針がボタンの穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針が当たると針が折れ、けがの原因となります。

④ ミシンをスタートさせ、10 針くらいぬったらミシンを止めます。

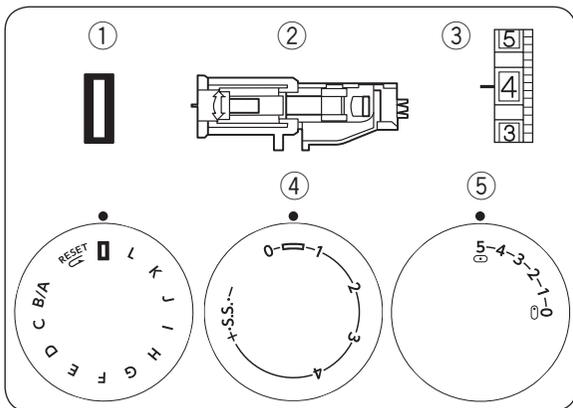
※ ぬい始めの上糸と下糸はハサミで切り取ってください。

⑤ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸、下糸を約 10 cm 残して切ります。

ぬい終わりの下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらレバーをもどして、送り歯をあげてください。

はずみ車を手で手前にまわすと、自動的に送り歯があがります。（7 ページ参照）



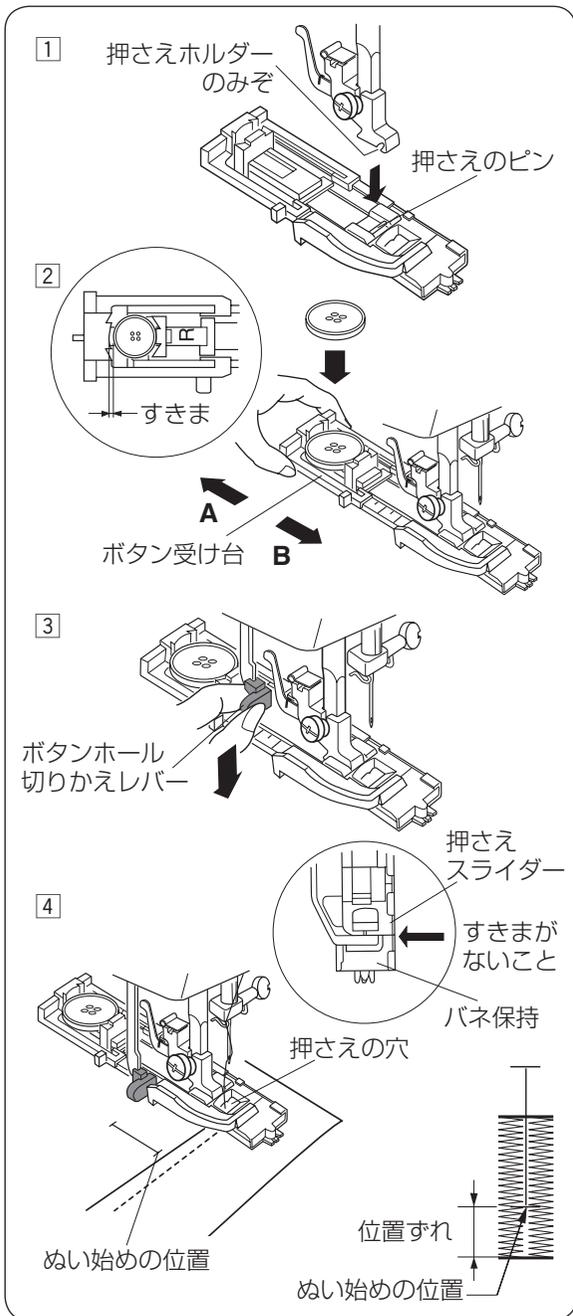
● ボタンホール

ボタンホールの注意事項

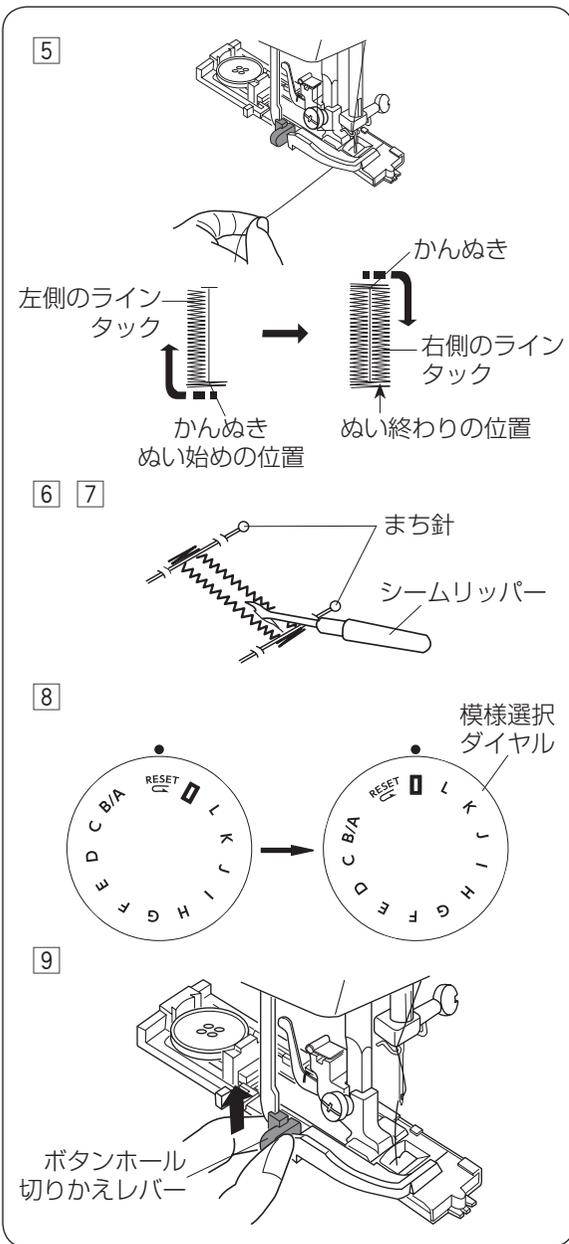
- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。
- ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと自動的に決まります。
- ボタンの直径が 1.0 cm ~ 2.5 cm までのボタンホールができます。

ミシンのセット

- | | |
|------------------|---|
| ① 模様選択ダイヤル: |  |
| ② 押さえ: | ボタンホール
押さえ |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 1 ~ 5 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | 0.5 ~ 1 |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | 5 |



- ① はすみ車を手で手前にまわして針をあげます。押さえ上げをあげ、押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせます。押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。
- ② ボタン受け台を A 方向に引き、ボタンをのせて B 方向にもどし、はさみます。
※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。
- ③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。
- ④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではすみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。
※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。ぬい始めの位置ずれになります。



- 5 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。(ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。)

手前のかんぬき、左のラインタック、うしろのかんぬき、右のラインタックを自動でぬいます。ぬい始めの位置にもどったらミシンを止めます。

- 6 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を約 10 cm 残して切ります。

ぬい終わりの下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

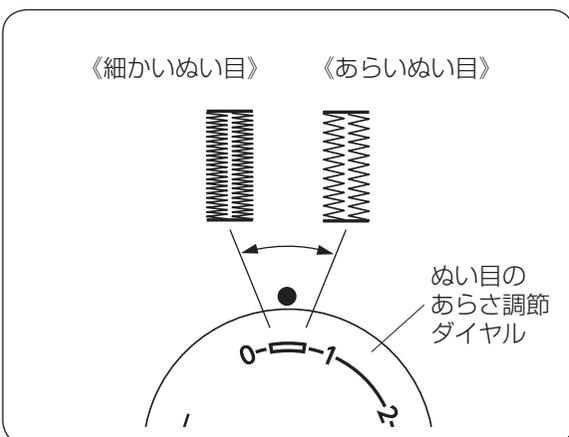
- 7 両方のかんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかかった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

【続けてボタンホールをぬう】

- 8 続けてボタンホールをぬう場合、左図のように模様選択ダイヤルを **RESET** にして、もう一度 **■** にもどします。

再度、フットコントローラーをふむだけで、同じボタンホールをぬうことができます。

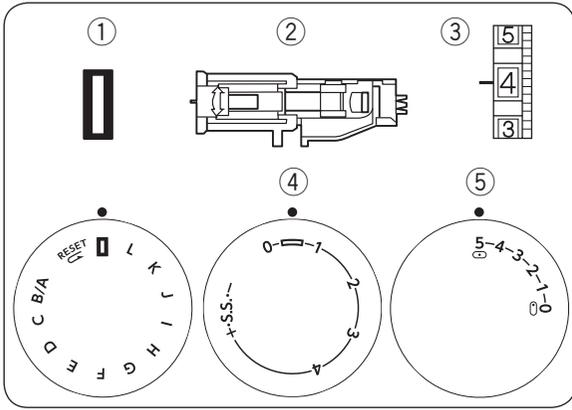
- 9 ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどします。



【ボタンホールのぬい目のあらしを調節する】

ボタンホールのぬい目のあらしは、ぬい目のあらし調節ダイヤルをまわして「**■**」マークの範囲で調節します。

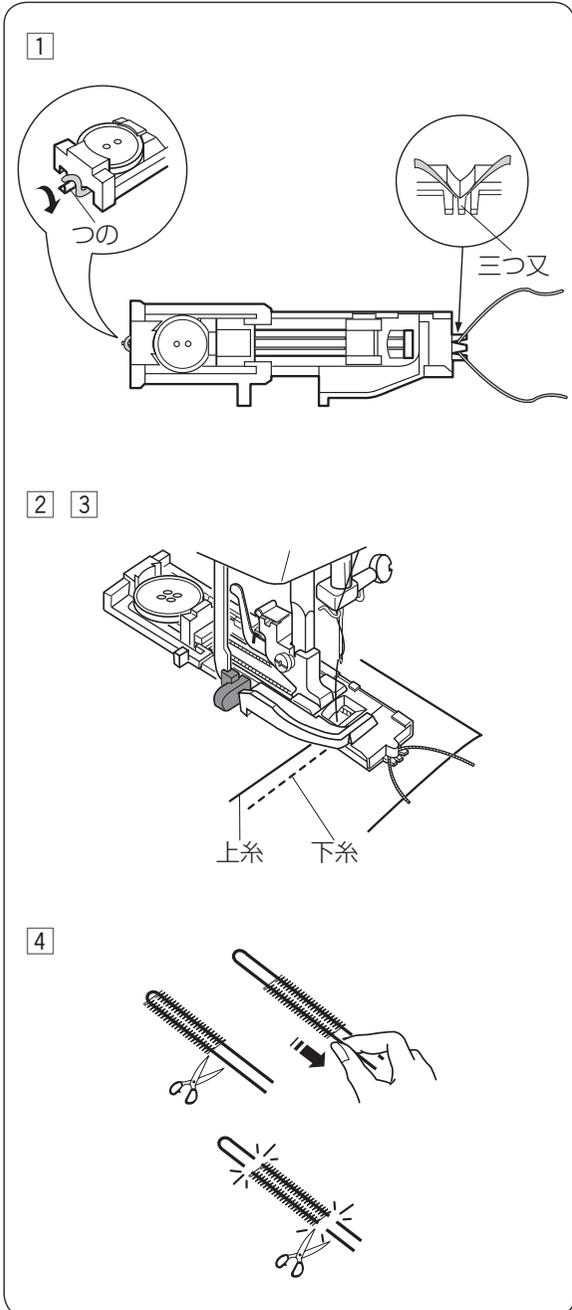
- ぬい目のあらし調節ダイヤルを左にまわすと、密度があらいぬい目になります。
- ぬい目のあらし調節ダイヤルを右にまわすと、密度が高く細かいぬい目になります。



● 芯入りボタンホール

ミシンのセット

- | | | |
|--------------------------|---|--------|
| ① 模様選択ダイヤル: |  | ボタンホール |
| ② 押さえ: | | 押さえ |
| ③ 糸調子ダイヤル: | | 1 ~ 5 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: 0.5 ~ 1 | | |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5 | | |

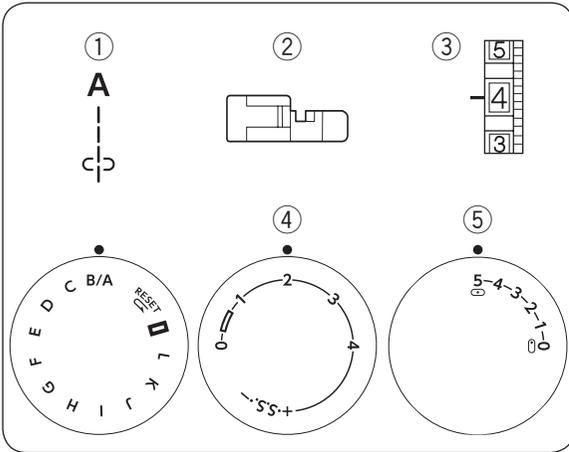


- ① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのかかけます。
 押さえの下から手前に平行になるように芯糸を引き出し、前側の三つ又にはさみます。
 ※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

- ② 上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。
 ③ ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。
 ミシンをスタートさせてぬいます。
 ※ ぬい方はボタンホールと同じです。
 (26 ~ 27 ページ参照)

- ④ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な糸を切ります。

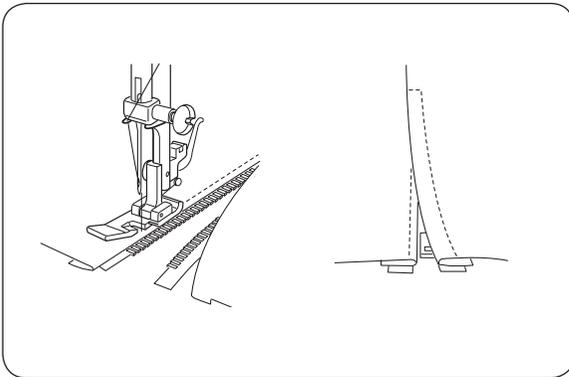
- ※ 左側の芯糸が引けない場合は、前後の芯糸を切ります。
 ※ 穴の開け方は、27 ページをごらんください。



● ファスナー付け

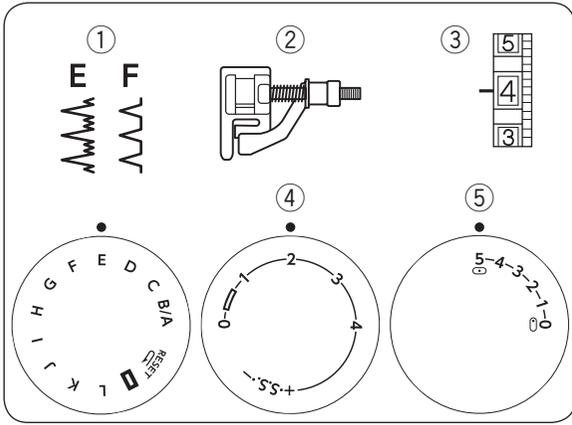
ミシンのセット

- | | |
|------------------|---------|
| ① 模様選択ダイヤル: | A |
| ② 押さえ: | ジッパー押さえ |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 2 ~ 6 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | 1.5 ~ 4 |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | 5 |



ファスナーの台布を布にまち針で止めるか、布用ののりで貼り付けて、押さえの下に置きます。上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側に引き出し、押さえ上げをさげます。

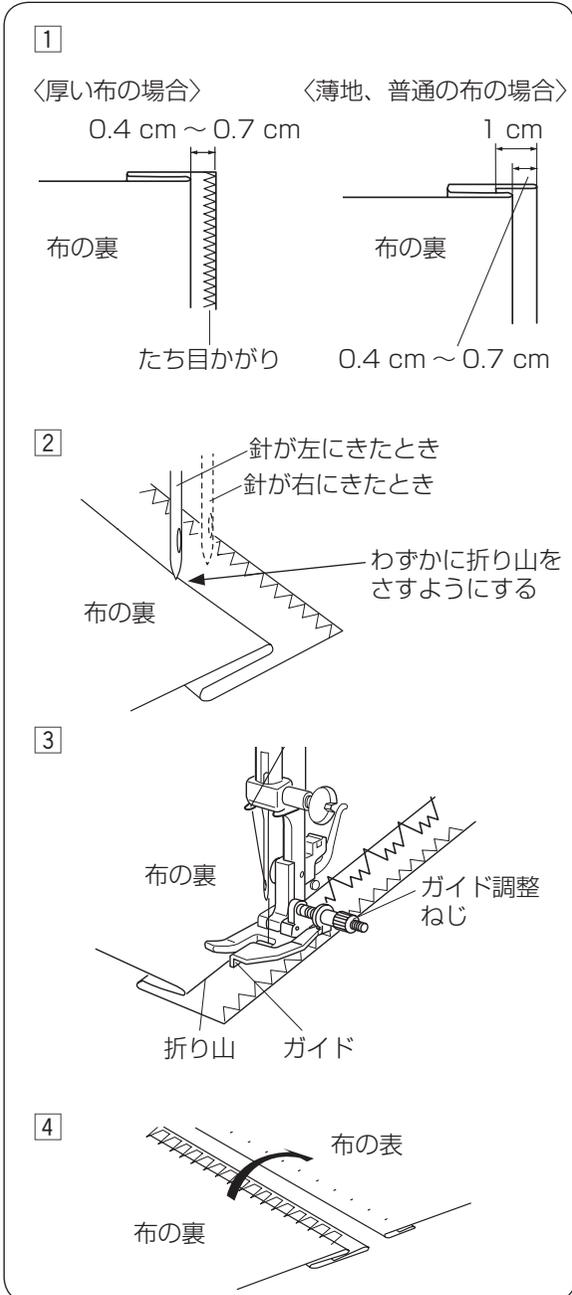
ファスナーの左側をぬうには、ジッパー押さえの端にそってファスナーのむしがくるようガイドし、布とファスナーの台布にぬい付けます。生地を裏返し、左側と同じようにファスナーの反対側をぬいます。



● まつりぬい

ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: E または F
 - ② 押さえ: まつりぬい押さえ
 - ③ 糸調子ダイヤル: 2 ~ 4
 - ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: 1 ~ 3
 - ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5
- ※ 模様 E は、伸縮性のある布をぬうときに利用します。



スカートやワンピースなどのすそのまつりぬい
 ができます。

※ 生地と同じ色の糸を使用してください。

- ① 左図のように布を折ります。
 ※ 厚い布のときは、布端をかがりぬいしてから
 折ります。

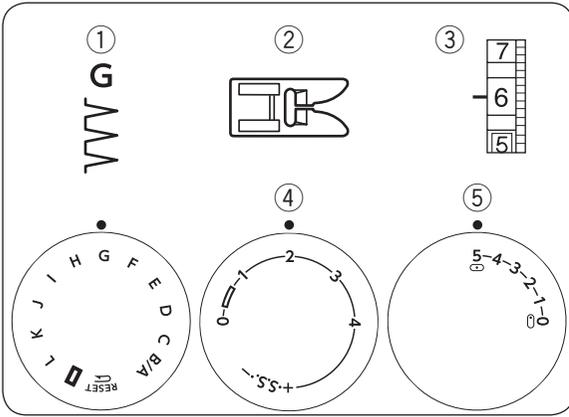
- ② はずみ車を手で手前にまわし、針が最も左に
 きたときに、わずかに折り山をさすように布
 を置いて、押さえ上げをさげます。

- ③ まつりぬい押さえのガイド調整ねじをまわし
 て、折り山に合うようにガイドの位置を調整
 します。

針が折り山から外れないようにぬいます。

- ※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかり
 すぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに
 仕上がりにません。針が折り山から外れ
 ないように、また必要以上に針が折り山にか
 かりすぎないように、布の位置を調整します。

- ④ ぬい終わったら布を表に戻します。

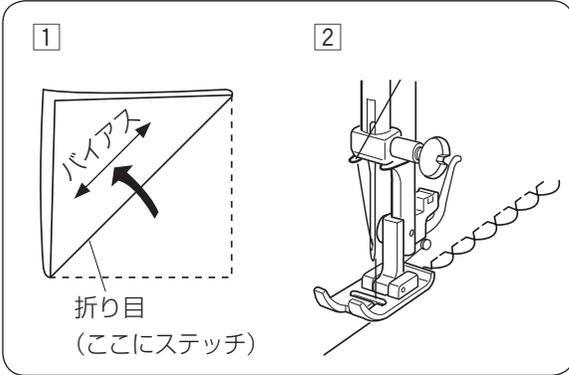


◎ 飾りぬい

● シェルタック

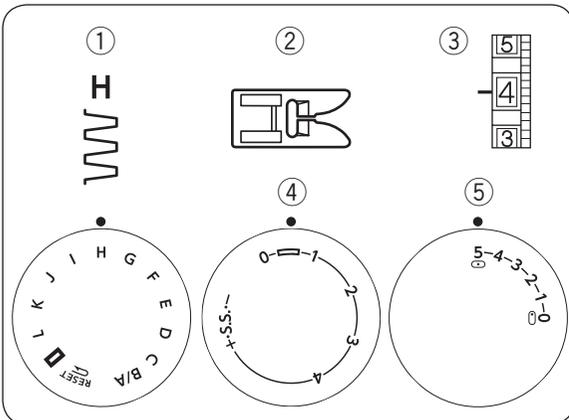
ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: G
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 6 ~ 8
- ④ ぬい目のあかさ調節ダイヤル: 2 ~ 3
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



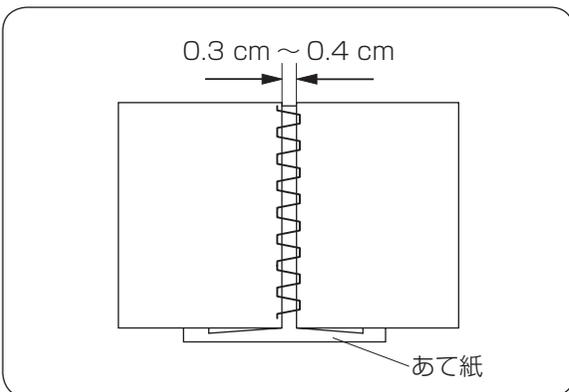
トリコットなど、うすい布を使用してください。
図のように布を折り、折り目にステッチします。

- ① 布をバイアスに2つ折りにします。
 - ② 針が右にきたときに、布の折り山のきわ(布の外側)におりるようにしてぬいます。
布をひらき、アイロンで山を片側にたおします。
- ※ 試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるよう糸調子を調節します。

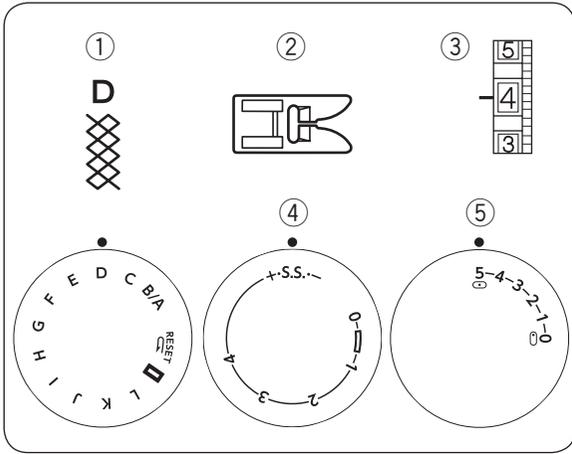


● ファゴティング

- ① 模様選択ダイヤル: H
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 3 ~ 6
- ④ ぬい目のあかさ調節ダイヤル: 0.5 ~ 1
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 3 ~ 5



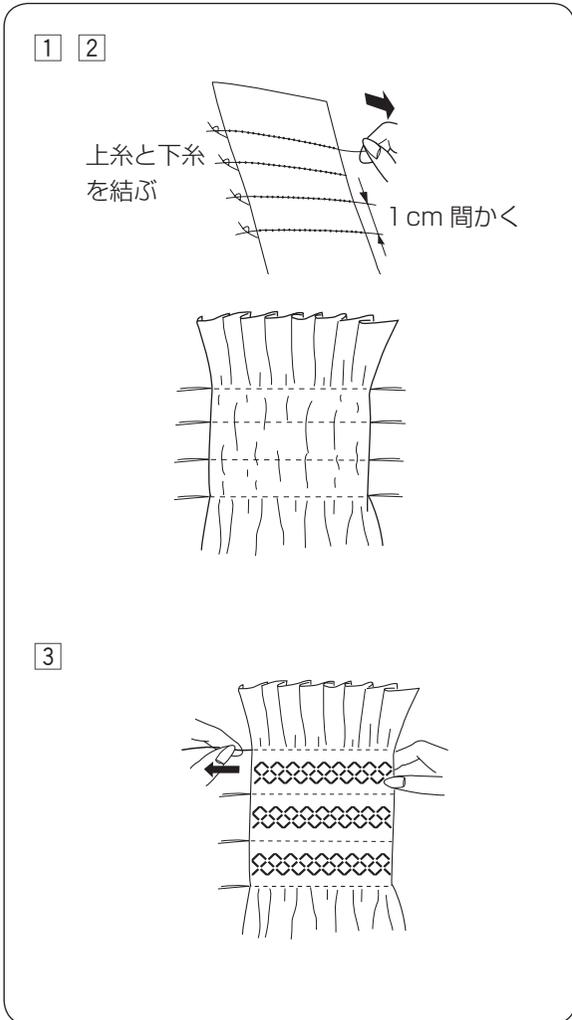
布端と布端の間かくを 0.3 cm ~ 0.4 cm あけて、下にあて紙をします。
布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙を取ります。



● スモッキング

ミシンのセット

- ① 模様選択ダイヤル: D
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: S.S.
- ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: 5



やわらかく、うすい生地の布（完成サイズの約3倍の幅）を用意してください。

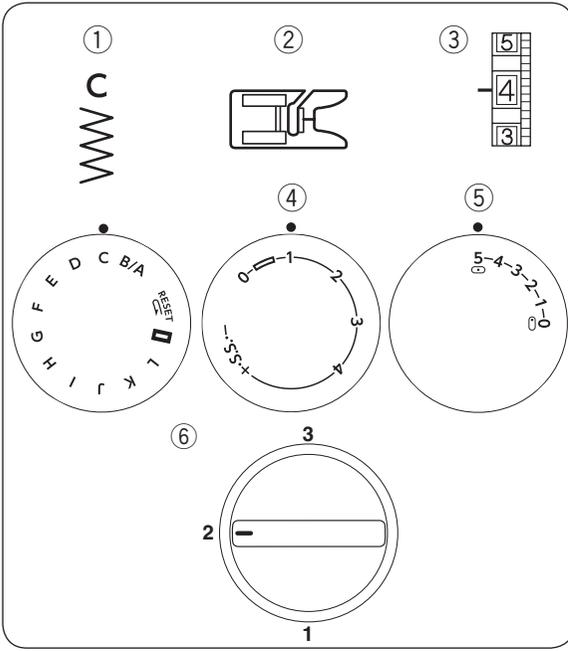
上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10 cm 引き出しておきます。

- ① 模様 A を選び、糸調子ダイヤルを「1」、ぬい目のあらか調節ダイヤルを「4」の直線を1 cm 間かくで数本平行にぬいます。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

- ③ 糸調子ダイヤルを「4」にもどします。

模様 D を選んで、直線ぬいと直線ぬいのあいだに模様をぬいます。

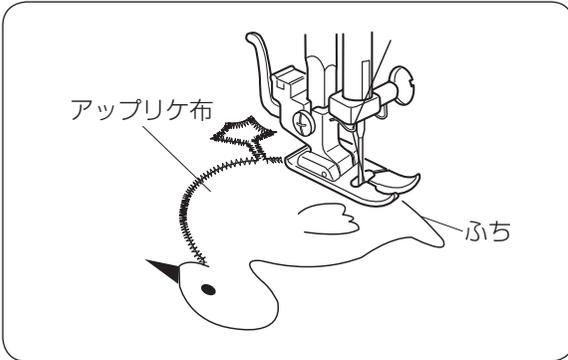
模様をぬったあと、直線ぬいの糸を抜き取ります。



● アププリケ

ミシンのセット

- | | |
|------------------|---------|
| ① 模様選択ダイヤル: | C |
| ② 押さえ: | サテン押さえ |
| ③ 糸調子ダイヤル: | 1 ~ 4 |
| ④ ぬい目のあらか調節ダイヤル: | 0.5 ~ 1 |
| ⑤ ぬい目の幅調節ダイヤル: | 5 |
| ⑥ 押さえ圧調節ダイヤル: | 2 |

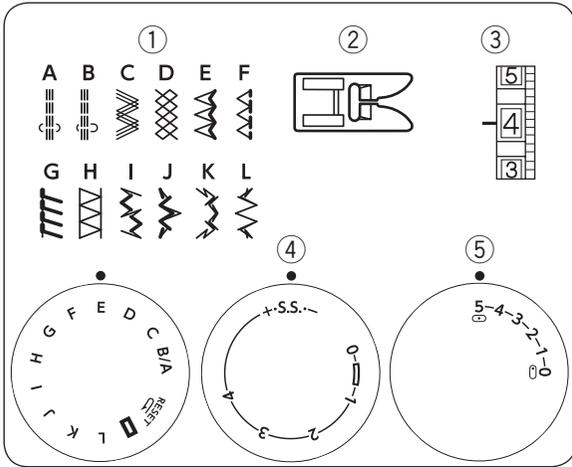


アププリケ布をのり付けするか、しつけぬいで止めます。

針をアププリケ布の外側に落とし、アププリケ布のふちをぬっていきます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、アププリケ布の外側に針がささった状態で、ミシンを止めます。

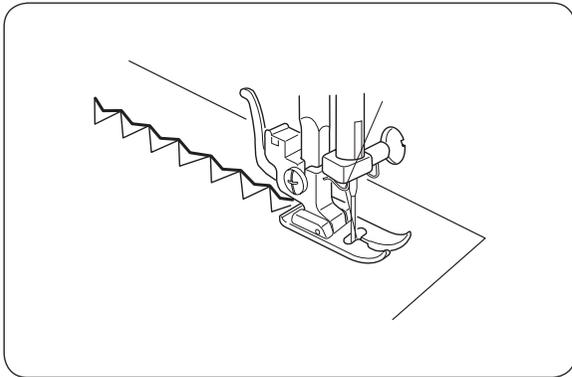
はずみ車を手で手前にまわして針をさげ、針を布にさしたまま押さえ上げをあげて方向をかえると、きれいに仕上がります。



● スーパー模様

ミシンのセット

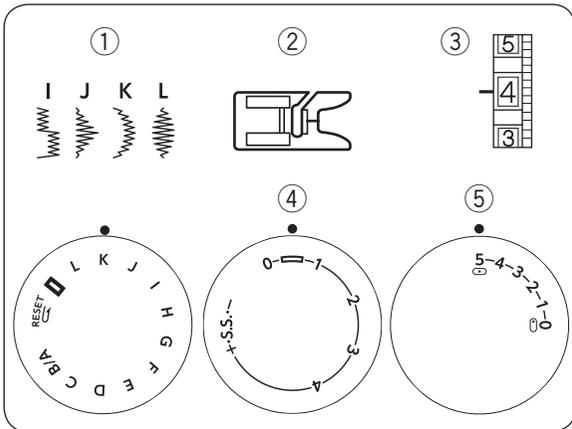
- ① 模様選択ダイヤル: A ~ L
- ② 押さえ: 基本押さえ A
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ めい目のあらか調節ダイヤル: S.S.
- ⑤ めい目の幅調節ダイヤル: 5



飾りぬいなどに使います。

布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

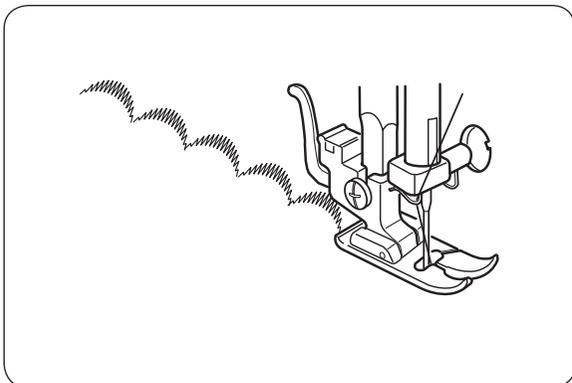
※ 模様の形の整え方は、17ページをごらんください。



● 密着模様ぬい (サテン)

ミシンのセット

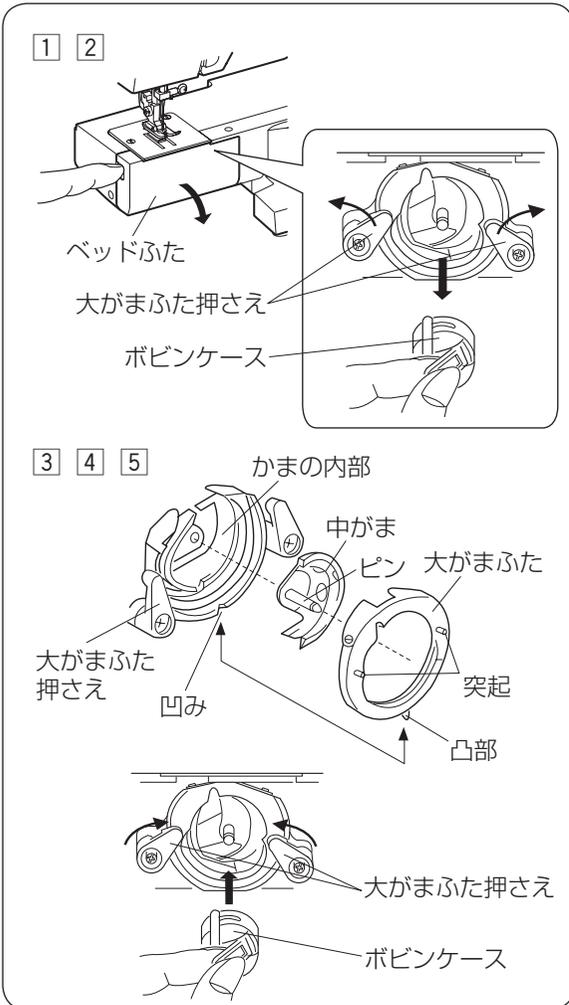
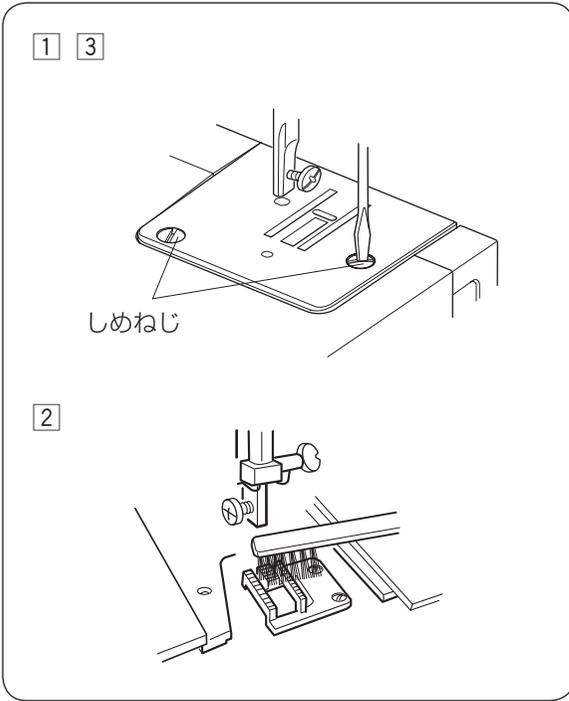
- ① 模様選択ダイヤル: I ~ L
- ② 押さえ: サテン押さえ
- ③ 糸調子ダイヤル: 1 ~ 4
- ④ めい目のあらか調節ダイヤル: 0.5 ~ 1
- ⑤ めい目の幅調節ダイヤル: 5



密着模様 (サテン) は、ぬい目のあらかが細かい飾り模様です。

※ めい目のあらか調節ダイヤルで、あらかを細かくすると、ぬい目がつまって布を送らなくなることがありますので、必ず試しぬいをして布送りの確認をしてください。

※ 布が縮む場合は、裏に芯地を貼ってください。



◎ ミシンのお手入れ

⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

● 送り歯の掃除

※ 針と押さえホルダーを外します。
(9、10 ページ参照)

- ① しめねじを 2 個外し、針板を外します。
※ ドライバーは標準付属に含まれていません。
- ② 送り歯のごみを、ブラシなどで手前に落とします。
※ ブラシは標準付属に含まれていません。
- ③ 針板を付けて、しめねじをしめます。

● かまの掃除

- ① 針をあげます。ベッドふたを開け、ポビンケースを外します。
- ② 大がまふた押さえを左右にひらき、大がまふたと中がまを外します。
- ③ ブラシでかまの内部を掃除します。
※ ブラシは標準付属に含まれていません。
- ④ 中がまを布で拭き、外したときと逆の手順で組み付けます。

中がまのピンを持ち、かまの内部にもどします。大がまふたの下のピンを凹みに合わせて取り付け、大がまふた押さえを元の位置にもどして、固定します。

※ 大がまふた押さえは、カチッと音がして両脇の突起が隠れるまでしっかりもどしてください。かまのがたつきや、針がポビンケースに当たって針折れの原因となります。

- ⑤ ポビンケースをもどします。

※ ポビンケースを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、かまがスムーズにまわることを確認してください。

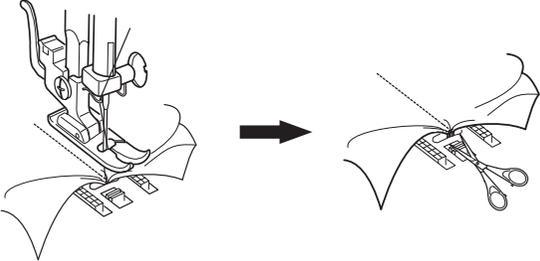
お願い：

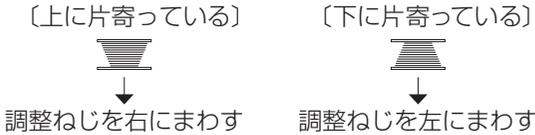
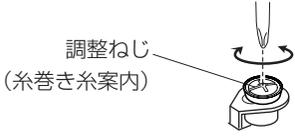
ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

●原因と直し方

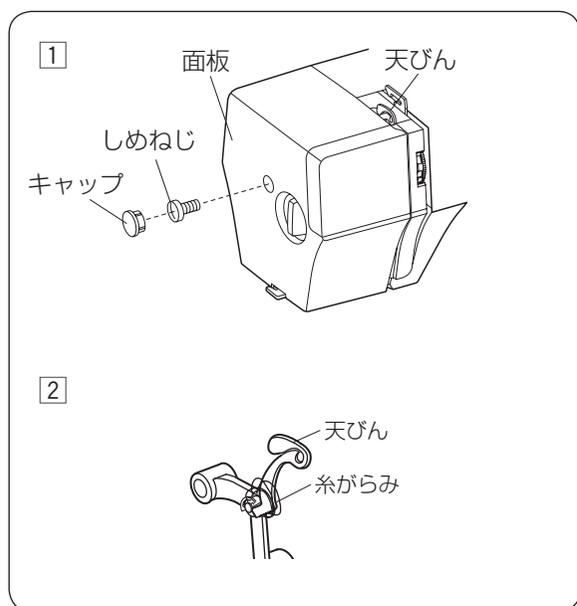
調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. めい始めに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. めい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>14 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>20 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>10 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボビンの入れ方がまちがっている。 2. かまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<p>13 ページ参照</p> <p>35 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する。</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめ付けがゆるんでいる。 3. めい終わったとき布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 上糸調子が強すぎる。 	<p>10 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>10 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p>
めい目がとび	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>10 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>14 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
めい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸のかけ方、ボビンの入れ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついたりしている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. めい目のあらかさが布に対してあらかすぎる。 5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。 	<p>18～19 ページ参照</p> <p>13、14 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>めい目を細かくする</p> <p>芯地を貼る</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. めい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>35 ページ参照</p> <p>めい目をあらくする</p> <p>7 ページ参照</p>
めい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>19 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p>
めい目に下糸が出る	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボビンの入れ方がまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 	<p>13 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p> <p>14 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p>
めい始めの糸がらみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. めい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。 	<p>14 ページ参照</p> <p>20 ページ参照</p>
うすい布、伸縮性の布が食い込む	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して針と糸が合っていない。 2. 左針位置でぬっていない。 	<p>10 ページ参照</p> <p>18 ページ参照</p> <p>(左針位置でぬう)</p>

調子が悪い場合	原因	直し方
<p>布裏で糸がからまる</p>	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 〔手順②の図〕</p> 	<p>14 ページ参照 【からまっている糸の取り方】 ① 電源スイッチを切る。 ② 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る。 ③ 針板を外す。 (35 ページ参照) ④ ボビンケースを外し、からまっている糸を切る。 (11、35 ページ参照) ⑤ かまを組み付け、ボビンケース、針板を取り付ける。 (13、35 ページ参照) ⑥ 上糸をかけ直す。 (14 ページ参照)</p>
<p>ボタンホールがうまくぬえない</p>	<p>1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3. 布に対してぬい目のあらしさが合っていない。</p>	<p>26 ページ参照 伸びない芯地を貼る 27 ページ参照</p>
<p>上糸が抜ける</p>	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに布に針をさしていない。</p>	<p>14 ページ参照 20 ページ参照</p>
<p>ぬい終わりに下糸が二重に出てくる</p>	<p>1. 針が上まであがっていない。</p>	<p>はずみ車を手で手前にまわして針をあげる</p>
<p>かまに糸がからまる</p>	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまの組み付けがまちがっている。</p>	<p>14 ページ参照 35 ページ参照</p>
<p>音がして糸がからまる</p>	<p>1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。</p>	<p>14 ページ参照 14 ページ参照</p>
<p>フットコントローラーをふみ込んでも動かない</p>	<p>1. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。</p>	<p>6 ページ参照</p>
<p>糸通しができない</p>	<p>1. 針と天びんが上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</p>	<p>15 ページ参照 10 ページ参照</p>
<p>音が高い</p>	<p>1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。</p>	<p>35 ページ参照 35 ページ参照 異常ではありません</p>

調子が悪い場合	原因	直し方
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。(糸巻き位置になっている) 4. 天びん内部に糸がからんでいる。	6 ページ参照 35 ページ参照 12 ページ参照 38 ページ「●面板の外し方・付け方」を参照しからんでいる糸を取り除く
模様がきれいにぬえない	1. ボビンの入れる方向がまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	13 ページ参照 11 ページ参照 14 ページ参照 19 ページ参照
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。 2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。 (上に片寄っている) (下に片寄っている)  	12 ページ参照 調整ねじをまわす 注意： 調整ねじをまわす範囲は、1 回転までにしてください。部品が外れます。

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。



● 面板の外し方・付け方

【外し方】

電源スイッチを切ります。

① キャップを外します。プラスドライバーでしめねじを外し、片方の手でささえながら面板を外します。

※ プラスドライバーは標準付属に含まれていません。

② 天びんからまわっている糸を取ります。

【付け方】

取り外しと逆の手順で面板を取り付け、しめねじで固定します。

※ ぬいのはときは、必ず面板を取り付けてください。

♪ - MEMO - ♪

♪ - メモ - ♪

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。



ジャノメ HP
FAQ ページ



ジャノメ公式
Instagram



ジャノメ公式
YouTube チャンネル

仕 様	
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	60 W
外形寸法	幅 436 mm × 奥行 188 mm × 高さ 295 mm
質 量	6.5 kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
最高ぬい速度	毎分 860 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

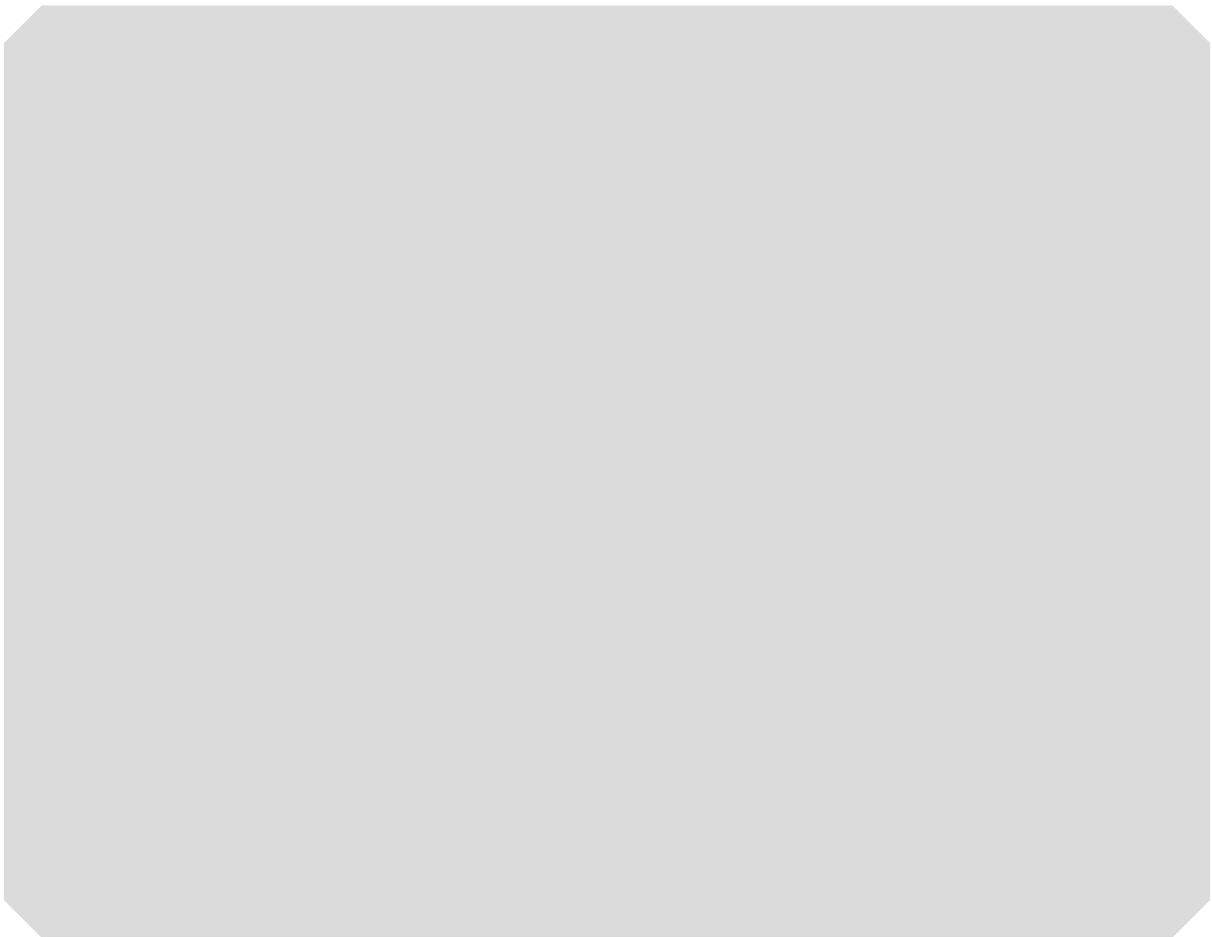
株式会社ジャノメ

住所 〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600

受付 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>

問合せフォームをご利用ください。



315-800-173